舊典類纂

皇位繼承篇

卷九 卷十

五

7 6
6266
5

内閣文庫

皇位繼承篇卷九

議官 福羽美静 校閲
少書記官 横山由清
大書記生 黒川眞頼 編纂

去永五味均平蔵

讓位異例

天皇崩ズト雖ヘドモ仍御存在ノ議ヲ以テ皇位ヲ讓シ事

○後一條天皇

日本紀略　後一條天皇云云長元九年四月六日上東門院彰子ニテ天皇ノ御母ナリ入内依天皇不豫也云云十七日戊刻天皇落飾崩于清涼殿春秋廿九在位廿年去三月以来御體不豫子刻諸卿近衛以重剣奉皇太子○皇太子ハ敦良親王ニテ即後朱雀天皇ナリ於昭陽舍依有遺詔暫秘喪事以如在之儀今日讓位於皇太弟

榮花物語（きゑはわびしとなげく女房）　うち（〇後一條天皇ヲイフ）　殿御なやみ日を
経ておもりゆき給て、四月十五日ごろよりなほ
給ふ、女院中宮涙ながれて御ものも云ず　云つひぬ四月十
七日殿夕ぐれ御ものいはせ給ひぬれば云云位なりゆく殿御あるまま
ハ変せ給いそぎ〻うるべきれど、御まゐの帝ふなりまら
せ給ひてなり（〇後一條天皇崩ズ、而シテ喪ヲ秘スルコト數日、仍御存在ノ儀ヲ以テ皇位ヲ讓ルト為ス、因テ此ノ條ト天皇疾病ニ因テ皇位ヲ讓ミ事ノ條トニ掲ゲ以テ類ヲ分ツ）

天皇時變ニ由テ皇位ヲ讓シ事

天下時變アレバ世態モ亦從テ變ズ、天皇為ニ
皇位ヲ避ケコレヲ後主ニ傳ヘ以テ時勢ニ隨
フ、後世コレヲ以テ法ト為ス可カラザルナリ

〇皇極天皇

皇極天皇紀　四年六月丁酉朔甲辰中大兄（〇天智天皇ヲイフ）密謂倉

山田麻呂臣曰三韓進調之日必將使卿讀唱其表遂陳欲斬入
鹿之謀麻呂臣奉許焉戊申天皇御大極殿古人大兄（〇天智天皇ノ庶兄）
侍焉中臣鎌子連知蘇我入鹿臣為人多疑晝夜持劒而敎俳
優方便令解入鹿臣笑而解劒入侍于座倉山田麻呂臣進而讀
唱三韓表文於是中大兄戒衛門府一時俱鎖十二通門勿使往
來召聚衛門府於一所將給禄時中大兄即自執長槍隱於殿側
中臣鎌子連等持弓矢而為助衛使海犬養連勝麻呂授箱中兩
劒於佐伯連子麻呂與葛城稚犬養連網田曰努力急應須斬子
麻呂等以水送飯恐而反吐中臣鎌子連嘖而使勵倉山田麻呂
臣恐唱表文將盡而子麻呂等不來流汗沃身亂聲動手鞍作臣
（〇入鹿ヲイフ）怪而問曰何故掉戰山田麻呂對曰恐近天皇不覺流汗
中大兄見子麻呂等畏入鹿威便旋不進曰咄嗟即共子麻呂等
出其不意以劒傷割入鹿頭肩入鹿驚起子麻呂運手揮劒傷其

一脚、入鹿轉就御座、叩頭曰、當居嗣位、天之子也、臣不知罪乞垂審察、天皇大驚詔中大兄曰、不知所作有何事耶、中大兄伏地奏曰、鞍作盡滅天宗、將傾日位、豈以天孫代鞍作耶、天皇即起入於殿中、佐伯連子麻呂、稚犬養連網田、斬入鹿臣、是日雨下潦水溢庭、以席障子覆鞍作屍、古人大兄見走入私宮、謂於人曰、韓人〇中大兄皇子及中臣鎌子等ヲイフ殺鞍作、臣吾心痛矣、即入臥内杜門不出、中大兄即入法興寺、為城而備、凡諸皇子諸王諸卿大夫臣連伴造國造悉皆隨侍、使人賜鞍作臣屍於大臣蝦夷、於是漢直等、総聚眷屬、擐甲持兵、助大臣設軍陣、中大兄使將軍巨勢德陀臣、以天地開闢君臣始有、説於賊黨、令知所起、於是高向臣國押、謂漢直等曰、吾等由君太郎〇入鹿ヲイフ應當被戮、大臣〇蝦夷亦ヲイフ於今日明日立俟其誅、決矣、然則為誰空戰、盡被刑乎、言畢解劍投弓、捨此而去、賊徒亦隨散走、己酉蘇我臣蝦夷等臨誅、悉燒天皇記國記珍寶、船史恵尺即疾取所燒國記、而奉中大兄、是日蘇我蝦夷及鞍作屍、許葬於墓、復許哭泣云云、庚戌讓位於輕皇子〇輕皇子ハ即孝德天皇ナリ立中大兄為皇太子〇孝德天皇皇位ヲ継承スルコト、委シクハ巻三皇子直ニ皇位ヲ継承スルノ條ニ擧グ見ルベシ

天皇事ヲ擧グルニ便ナラントシテ皇位ヲ讓シ事

海内皇命ニ抗スル者アレバ天皇師ヲ出シテ之ヲ討ツ、安ゾ天皇事ヲ擧グルニ便ナラントシテ皇位ヲ避クルノ理アランヤ、此ノ如キハ後世以テ法ト為スベカラザルナリ

〇順德天皇

百練鈔　承久三年四月二日被立三社奉幣使、宣命趣世人成不審歟〇後鳥羽天皇順德天皇兵ヲ擧テ、北條義時ヲ討伐スルノ趣ノ宣命ナルベシ八日内裏己下

御灌佛也、及晩洛中物忿也、重事已相定云云廿日今日有御讓位事、申刻大臣以下参入天皇大炊殿皇太子懐成〇懐成親王ハ即仲恭天皇ナリ御院被渡劍璽新攝政〇道家ヲイフ已下諸卿相從之

神皇正統記下巻　承久三年事

おほ〜しめしうつることありられば俄に讓國し給ふ順德院ゆゑとこそ合戦のことをもひとつ所にせさせ給ふ所をのうけとるや、物ゆゑ〇懐成親王ニテ即仲恭天皇ナリ讓位あるべし云云

六代勝事記　同三年〇承久三年ナリ四月廿日上〇順德天皇ヲイフ位を太子〇太子ハ懐成親王ニテ即仲恭天皇ナリ譲ひ奴、五月十五日太上天皇〇後鳥羽天皇ヲイフ天寶院むらひとしく兵をめしてゆ、陽の中後廷尉光季を討せられ、追討使をわかちつかはす云云〇天皇御父後鳥羽天皇ト俱ニ兵ヲ擧テ北條義時ヲ討タント欲ス、故ニ皇位ヲ讓シコト知ルベシ

天皇上皇ノ意ニ從テ皇位ヲ讓シ事

天皇皇位ヲ避クルノ意ナシ、而ルニ太上天皇諷諭シテ之ヲ避ケシム、天皇因テ上皇ノ意ニ從テ皇位ヲ新主ニ讓ルトイヘドモ而レドモ意釋然タラズ、故ニ當時即チ兵ヲ擧グルニ至ルアリ、或ハ數世ヲ經テ後竟ニ兵革ニ及ブアリ、此條ヤ後世必ズ法ト為スベカラザルナリ

崇德天皇　六條天皇　土御門天皇　後深草天皇

〇崇德天皇

愚管鈔巻四　あらくなる中ごろ、崇德院の位ゆゑ〜ゆゑけるゆゑ、鳥羽院〇崇德天皇ノ御父ナリを長寛中納言ゆゑ娘を腹ゆゑ、をのこ生れさせ給へるを本宮ゆゑ、崇德の后ゆゑは法性寺殿ゆゑ娘なられる皇子ゆゑ、その御子ゆゑ

よりあて云云生定あて譲位は蛭しとやされられば、崇徳院いさあべしとて永治元年十二月ふ伊譲位有るふ、保延五年八月ふ京家ふを立せ給ふ皇、宣命ふ皇太子とも有んむらんと思召けるを、皇太弟空かせられけふ時と乗いふふと文崇徳院の伊意越ふらり皇ら

続世繼物語巻三　男山　保延五年ふや御りん、つちのとの丑つ時年五月十八日よふ方なりけらなる玉のを持ちたりや〇體仁親王ニテ即近衛天皇ナリ生れさせ給ひぬれば云云日ふそんてめでたこのなるちど伊伊ちらちなるふつけても、いとのでうまぶやこのふことの変ふも位ふもとおぼせども、后だらふ、ちはまさおはしまをさ越べきなるまばおりほしめ御ふほぼふ当代崇徳院伊子ふなり給ふこといできてみふ月の廿六日皇子内へいらせ給ふ云云同七年〇保延七年ニテ即永治元年ナリ十二月七日

下ニ保元物語及増鏡ヲ引テ、以テ其ノ情実ヲ示ス

伊年三ふて位ゆづりきさせ給ふ〇崇徳天皇萬機ニ堪ヘザシテ皇位ヲ譲シニ非ズ、次

保元物語上巻　保延五年五月十八日美福門院御腹ニ皇子御誕生アリシカバ、上皇〇鳥羽天皇ヲイフ殊ニ悦思召テ何シカ春宮ニ立給フ〇春宮ニ立シハ近衛天皇ナリ永治元年十二月七日三歳ニテ御即位アリ依テ先帝〇崇徳天皇ヲイフヲバ新院トゾ申ケル、先帝コトナル御恙モ渡ラセ給ハヌニ押オロシ給ヒケルコソ浅マシケレ、依テ一院〇鳥羽天皇ヲイフ新院〇崇徳天皇ヲイフ父子ノ御中快カラズトゾ聞エシ、誠ニ御心ナラズ御位ヲサラセ給ヘリ〇崇徳天皇位ヲ譲シ事情コノ文ニテ見ルベシ

増鏡巻一　おどろのしも　永治元むとし鳥羽の法皇は崇徳院の伊心もゆのぬふおろ〜〜ものそて、近衛院をそるをまりなるひ〜時を、伊つ〇崇徳天皇ヲイフいとしどう志ぶ〜せ給ひて、その表ふなの子

まで勅使をつかはしゝて参らせ給ひて、内侍所剱璽などをも渡しゝ奉させ給へ申しぞこの、さてゝその序のきゞほ事ども忘れ給ひてゝ、保元のこゞれも忘きゆで給へまゝを云云

〇六條天皇

續世繼物語巻三花ぞの〻ふぼひ　永萬元年六月廿五日位ふつのせ給ふ〇六條天皇ノ即位ヲイフ　序年二よをゝもつせ給ひて三年ふやおはゝまゝらむ、一院〇後白河天皇ニテ六條天皇ノ御祖父ナリおぼゝめゝおきつることふて、とうゝ〇勅諚ナルベシふ位を讓申給て〇高倉天皇ニ皇位ヲ讓シヲイフをさなゝ出はゝまゝしふ太上天皇とゝもいとやんことふゝ、御年二ふゝ位ふつの勢給ふとゆ是やさゞめてゝおもゝまゝらむ

玉海　仁安三年二月十六日亥刻許、或人告送云来十九日可有讓位事、於閑院可有其事云云十七日未刻許参東宮〇東宮ハ憲仁親王ニヲ即高倉天皇ナリ相合女房談讓位事、昨日俄出來事云云上皇〇後白河天皇ヲイフ有思召事御出家事歟且因之令急給、十九日今日御讓位事云云子刻劍璽渡御〇後白河上皇ノ出家ノ前ニ高倉天皇ヲ即位セシメントト欲シテ、六條天皇ノ讓位ヲ急ガシメタルニテ、六條天皇ノ意ヨリ出シ讓位ニ非ズ、讓位ノ歳天皇御年五歳ナリ、因テ以テ異例ト為ス

〇土御門天皇

増鏡巻一おどろのもゝさ　承元二年ふもなりぬ、十二月廿五日二の宮〇後鳥羽天皇ノ二宮守成親モニテ即順德天皇ナリ御冠しゝ給ふ、御經始つゝ院院御護なり、このゝゝを院〇後鳥羽天皇ヲイフ限なゝこのふしき物ふ思ひ給元させ給へまゝば、ふゝゝきゝゝを奉しゝいくしゝうゝてこのゝづきゝゝりゝ給ふ事なのめなゝらぬ、つひふ四年十一月ふ御門位ふつゝ奉ゝ給ふとゝゝ帝〇土御門天皇ヲイフゝ年ゝゝて十六ふなゝらせ給へばいゝぐゝゝるこのふる御きゝ序さのゝゝふ、かゝるをいとゝのゝぞあれとおぼゝされゝ、永治のむゝのしゝ月の法皇崇德院の序心も

世のぬふおろしゝ吹えて、近海流を走る事まことに強ひしと
知れ、帝いみじう恐ぢ給ふて、そは表ふなるまぐ勅使を
遣はして問ふ所、叡慮あるとを渡し
この〇さて強へ至しぞうし、さてそは時いさどろを走るまく
ふて保元のころぶれも毛きいぐ強へまを、式帝〇土御門天皇ヲイフ
ふいとあてふ自どのなる所を上ふて、おぼしむそぐぐ
まねふいあらねどもけしきふもらしを強をず、いとあくなさ
事ふ思ひやけ星、承久つ院ふどいまいていとむもいくおぼされ
け星〇土御門天皇ノ災異ヲ以テ皇位ヲ皇太弟守成親王ニ譲ル、此ノ文ヲ按ズルニ天皇災異ヲ以テスル者ハ、恐クハ辞ト為スノミナラン

六代勝事記　阿波院天皇〇土御門天皇ヲイフ　ハ隠岐院〇後鳥羽天皇ヲイフ

第一　孫子云云　元立位十二年のあるぐ、天地変異ふく西陣
時をあ中ふ〜ぞ國を治ふ民ぞ治のなり、太上天皇〇後鳥羽天皇ヲイフ

ふ威徳自立社樂ふほとり〜て第方社接育を忘れ強ひ、又近臣
寵女ろ誅つ〜〜て四海の清濁をわろぎるゆ名ふ、今上陛下の
〇土御門天皇ヲイフ　帝運いまぐきはまりを強をぐるをおろし〜第星、
茅洞の風秋ぢ〜〜茨山社月新さぐ〜〜ぐりき〇土御門天皇災異累ニ臻ル
ヲ以テ辞トシ、皇位ヲ順徳天皇ニ譲ルトイヘドモ而レドモ其意已ムコトヲ得ズシテ後鳥羽上皇ノ意ヲ奉ズルニ在リ、六代勝事記ノ文見ルベシ、

承久軍物語上巻　承元四年十二月一日上皇〇後鳥羽天皇ヲイフ　第三
の皇子守成社ぢ〜〜〇順徳天皇ヲイフ　を所位ふつけ強ひて、第一の所子
〇土御門天皇ヲイフ　をを治〜〜と免奉ら〜め強ふ、あれい当獲社
所寵党ふよつて〜ぐり、されば一院〇後鳥羽天皇ヲイフ　新院〇土御門天皇ヲイフ
所中ふ〜ぐぐ〜ぐ〜〜

〇後深草天皇

増鏡巻四　そは年〇正元元年ヲイフ八月廿八日東宮〇恒仁親王ニ

テ即亀山天皇ナリ十一ヵ年ノ間元寇ノ役アリ、序いとなき恒例ときこゆ、世の中やうやうほのぼのさかりなる事あれば、序つ〇後深草天皇ヲイフハあるべかりおぼえそうおぼされて、よるひるしづかなる序物語ひつのぐみ、内侍所の拝礼数をつぐべくられられば、五千七千四日なりけるをうけつぎたまふ、雜の内侍

ふる代といへば五つぎつぎ七千ゐあまる日かずを祈わたれど、かくて十一月廿六日出家あさせ給ふ、宮ばらきさへ河をわたるうちそぎて物がなしく見えられば、伊勢ばらごがあひも思ひぬるぎをとい云ふんふるとさへ今はとちしてひぼそく却行四、うへ〇後深草天皇ヲイフもおぼしまうけ給へれど剣璽のいでさせ給ふ方ど常ばけ幸ゐ序兆をはなれざりつるならひ、十三年ばなどを引わかるゝ程いとあはれゐ忍びぐさ序ゐきをこの年ばを、年内侍

いまそとて〜ありあるる雲ばおぐるれば心のうちぞかきくらしける〇後深草天皇ノ皇位ヲ亀山天皇ニ譲シハ、御父後嵯峨天皇ノ意ニ従ヒシコト、増鏡ヲ見テ知ルベシ因テ此ノ

（除ニ載ス）

譲位非例

天皇權臣ノ類スルニ従テ皇位ヲ譲シ事

後宇多天皇以来數世權臣跋扈ス、天皇皇位ヲ新主ニ傳フルニ必ズ其ノ意ニ従ハザルヲ得ズ、是ニ由テコレヲ觀レバ、天皇ヲシテ徒ニ神器ヲ擁セシムルナリ、後世必ズコレヲ以テ法ト為スベカラザルナリ

後宇多天皇　後伏見天皇　花園天皇

〇後宇多天皇

正應天皇御記　弘安十年十月廿一日今日譲位也〇後宇多天皇ノ皇

位ヲ伏見天皇ニ譲ルヲイフ去十二日自関東依申也〇関東ハ北條貞時ヲイフ

増鏡巻六老のなら何とふ〜過ゆ〜ふどふ弘安も十年ふなりぬ、

その帝〇後宇多天皇ヲイフ位ふつき給ひて〜十三年ばかりふなをぬらん、

本院〇後深草天皇ヲイフ給ぶほふおぼさるらんといとほし〜く〜

ちかきあたりや、例ならぬ奏もる事ありぬ〜〇東ヨリ奏スルトハ北條貞時ノ奏スルヲイフ新院〇亀山天皇ヲイフ殿御こゝろざしふは、心細う

ゆ〜しう〜なやむべし云云よろづあこのぞおぼさるゝほど

なれど、その年の十月ふ〇弘安十年十月ナリおぼしなさせ給ふよ〇後宇多天皇ノ北條貞時ノ奏ニ従テ位ヲ伏見天皇ニ譲ルヲイフもとのうへ〇後宇多天皇ヲイフハ世

一ぞなりぬせ給ひける、殿御上もいとうるはし〜ものし

給ふるさまふおぼし〜き、ものよのふ殿才もか〜とうめで

たうおぼし〜ませば、殿御ことなぶらもてう〜譲や少

えず〜などおぼされつるふ〇亀山天皇ノ院中ニ於テ政務ヲ判決セルヲ、今ニ至テハ御子

ノ當今後宇多天皇ニ譲ラントあへなくうらひぬる世を、そト思シ召シタルヲイフナリいとあへなくうらひぬる世を、そ

げふ〜新院いおぼさるべし、春宮〇瀝仁親王ニテ即伏見天皇ナリ位ふ即位

ひぬれば、天下本院〇後深草天皇ヲイフふ〜うつ世ぬ、世の中ふ

わのれて人ぶむぐもかるきはふぞ〜られける

北條九代記巻十一弘安十年十月廿一日京都ニハ主上〇後宇多天皇ヲイフ御譲位ノ御事アリ、主上今年僅ニ廿一歳ニナラセ

給フ、亀山ノ新院モ只今ノ御譲位ハ餘ニ早速ノ御事ナレバ、

イマダ遅カラズ御殘リ多クオボシメシ、主上モ本意ナラズ

ト聞エサセタマヘドモ、後深草ノ本院〇伏見天皇ノ御父ナリ強ニ待兼

サセタマフベシ、只疾御位ヲユヅラセタマハンハ然ルベキ

太平比和ノ御基タルベキ旨、關東ヨリ奏シ申セバ、御心ノマ

〜ナラズ、俄ニ御譲位有テ東宮瀝仁御位ニツカセタマフ

〇後伏見天皇

増鏡巻七（第十三）　又の年行む月の頃（○正安二年正月ナリ）内侍所注連の
おもはせるまいりあるべきことゝふこの年ぞ忍びてさめく程
ゝなれ、あらぬ行使（○北條貞時ノ使者ナリ）のぼるゝ世中さわ
ぎて、禪林寺殿見まゐらせ世ふるゝや（○禪林寺殿トハ亀山天皇ノ皇統ヲイヘルニテ、コヽニテハ後二條天皇ヲサシテイヘリ）正月廿一日春宮（○邦治親王ニテ即後二條天皇ナリ）位ゐつの勢行ぬ、あらぬ行つ（○後伏見天皇ヲイフ）十四ゐて太上天皇行
尊号あり

北條九代記巻十一　正安三年正月鎌倉ヨリ使節トシテ隱
岐前司時清山城前司行貞上洛シテ、主上ノ御位ヲ下シ奉リ
（○主上ハ後伏見天皇ヲイフ）東宮（○東宮ハ邦治親王ニテ即後二條天皇ナリ）ヘヨヅリ奉リ給フ、
主上今年イマダ十四歳御在位ワヅカニ三年ニシテ、何ノ御
事モオハシマサヾリケルヲ押オロシ奉ルコト、天道神明ノ
照覽モイカヾ恐ロシトゾ心アル人ハ申合レケル、太上天皇
ノ尊號蒙フラセタマヒケリ、王道久シク廢レテ政事ニ付テ
ハ萬叡慮ニ任セラレズ、天下ハコレ天子ノ天下ニモアラズ、
又天下ノ天下ニモアラズ、關東ヨリ計ラヒ奉リ、武家ノ天下
トナリケルコトヨト申ス人モ多カリケリ、邦治親王御位ニ
ツキタマフ、御寶算十七歳、二條太政大臣兼基公關白タリ、龜
山法皇後宇多上皇スデニ院中ニシテ御政務ヲ聞シメス

○花園天皇

増鏡巻八（秋のみ山）　文保二年二月廿六日門（○花園天皇ヲイフ）ゐまる
させ給ふ、春宮（○尊治親王ニテ即後醍醐天皇ナリ）そゝ〻ふゝゝびふみたせ給
へば、行ゝほなをつるゝめで行ゝ（○花園天皇皇位ヲ後醍醐天皇ニ譲シコトハ、伏見天皇御在位ノ時、北條貞時ガ計ラヒヲ以テ、強テ定メタル例ニ因ルニテ、花園天皇ノ意ヨリ出タルニ非ズ、次下ニ北條九代記ヲ引テ粗其ノ事情ヲ示ス、尚委シクハ巻六定策非例ノ條下ナル定メテ治世ノ期限ヲ十年トセシ事ノ條ヲ見ルベシ）

北條九代記巻十二　文保二年二月二十六日京都ニハ御譲位ノ御事アリ、主上○花園天皇ヲイフ今年二十二歳、春宮○尊治親王ニテ即後醍醐天皇ヲイフハスデニ三十歳ニアマリ給フ、コレハ後宇多院第二ノ皇子尊治親王ト申奉ル、御母ハ談天門院、参議忠繼卿ノ御女ナリ、皇子スデニ春宮ニ立テ御年三十一歳ニナラセ給ヘバ、後宇多法皇ヲ初メタテマツリ、ソノ方ザマノ人々ハ待兼サセラルベシトテ、關東ヨリ計ラヒ申テ、同廿九日尊治親王御位ニ即給フ

遜位

天皇事故アリ、已ムコトヲ得ズシテ皇位ヲ避ク、今是ヲ記シテ遜位ト為シ、以テ譲位ト別ニス、文字上ニ於テ論ズレバ、譲位ト遜位ト別ナシ、百練鈔ニ鳥羽天皇云云保安四年正月廿八日遜位ト記セリ、鳥羽天皇ノ遜位ハ即譲位ナリ、以テ知ルベシ○神皇正統記巻五高倉院云云も、せをいとはせはしけるひまとぞ、トあり、コレモホ譲位ト遜位の事あヒ〜而シテ今特ニ譲位ト記セズシテ、遜位ト記スル者ハ、唯天皇事故アリ、已ムコトヲ得ズシテ皇位ヲ避クルヲ認ノシメント欲スルノミ、抑、天皇事故アリ已ムコトヲ得ズシテ皇位ヲ避クト雖ヘドモ、而レドモ其ノ神器ヲ以テ新主ニ傳フルガ如キハ遜位ノ例ニ非ズ、今遜位ト稱スル者ハ、天皇事故アリテ皇位ヲ避ク、其ノ神器ニ於テハ受クル者無シ、是ヲ遜位トイフ

陽成天皇　花山天皇　仲恭天皇

○陽成天皇

陽成天皇紀　元慶八年二月四日先是天皇手書送呈太政大臣○基經ヲイフ曰朕近身病數發動多疲頓社稷事重神器已守所願速遜此位焉宸筆再呈肯在難行是日天皇出自綾綺殿遷幸二條院二品兵部卿本康親王右大臣從二位兼行左近衛大將源朝臣多云云扈從文武百官供奉如常但少納言不奏給鈴之狀諸衛不稱警蹕○常ノ行幸ト異ナルヲイフ神璽寶劍鏡等依例相從驛鈴符內印管鑰等留置承明門內東廂令參議正四位下行左大辨兼播磨守藤原朝臣山陰從五位上行少納言兼侍從藤原朝臣諸房左少辨正五位下安倍朝臣清行等留守焉會文武百官於院南門○院南門ハ二條院ノ南門ナリ詔曰現神止大八洲御宇日本根子天皇加御命良萬止宣御命乎親王等王等臣等百官人天下公民衆聞給止宣食國乃政乎永遠聞食倍喜乎御病時々發已止有天萬機滯已久成奴天神地祇之祭乎毛闕怠已止有奈牟乎加止危美畏利念保之天皇位乎讓遜給天別宮尓遷御坐奴止宣御命乎親王等大臣等聞給部○陽成天皇ニ條院ニ遷御アリテ皇位ヲ讓ルノ詔アリ、而シテ受禪ノ君未ダ定ラズ、サテコレ迄ハ天皇ノ意ヲ宣セシナリ、天皇ノ意実ニ此ノ如クナリシニヤ頗不審ナリ、因テ次下ニ諸書ヲ引テ其ノ情実ヲ示ス承詔天陽成天皇ノ詔ヲ臣下ノ承ルナリテ上ノ文ヲ受ケタルナリ恐美畏母國典尓准天太上天皇之尊號乎進留○群臣奏シテ陽成天皇ニ太上天皇ノ尊号ヲ上リシナリ、然ルニ大鏡裏書ニ元慶八年三月上尊号トアルハ誤ナリ、陽成天皇ニ非ズ号ハ光孝天皇即位ノ後上リシナリ尊又皇位波一日母不可曠一品行式部卿親王波○時康親王ニテ即光孝天皇ナリ諸親王中尓貫首尓毛御坐奴止又前代尓無太子時尓波如此老德乎立奉之例在加以御齡母長給比御心母正直久慈厚久慎深御坐天四朝尓佐仕給天政道乎母熟給利百官人天下公民尓未天謳歌所飯咸無異望故是以天皇璽綬乎奉天天日嗣位定奉良乎久親王等王等百官人天下公民衆聞給部止宣○承詔ヨリ以下コレ迄ハ、群臣相議シテ康親王ヲ以テ天皇トスルヨシノ宣命ナリ中納言在原朝臣行平於庭誥之百辟群寮並立侍焉事畢

王公已下拜舞而退、於是以神璽寶劍鏡等、付於王公、即日親王公卿歩行奉天子神璽寶劍鏡等今皇帝○光孝天皇ヲイフ於東二條宮、百官諸仗圍繞相從、二條院與二條宮、相去東行數百歩、是夜皇太后○陽成天皇ノ御母藤原高子ナリ出自常寧殿遷御二條院焉

大鏡卷二　太政大臣基經のおとゞは長良中納言ぞ三郎ぞ

おはせ云　陽成院ぞ、まうけ給へりけるを、この大臣

融の御ぞ、やんごとなく信ぶつ心深くて、近き王

孫をとゞめば融らも侍ぞ、といひ、ぐしたてまつるを、この大臣

○基經ヲイフ　王孫なれど姓を賜はりて、信ぶつ

なる事、世をも申出給へ、さるべき事なれど、この大臣

さぶらひ給へ、小松帝○小松帝ハ即光孝天皇ナリ　を信ぶつ給へる

○光孝天皇ハ陽成天皇ノ讓ヲ受ケシニアラズシテ、基經等群臣ノ勸進ニ從テ皇位ニ即キタルヲイヘリ、此ノ條宜シク皇子承ヒシ事ノ條ト合觀スベシ

愚管鈔卷三　陽成院九ヶ年ぞ信ぶつ給へりけるを、八年ぞの間、昔

は武烈天皇は如く不斜淫ましく御ましけるを、

昭宣公基經は、摂政ぞ諸卿群議行て、是をいとゞ國を

ぞ國をも治ぞ御ましけ治ぞべきとなん申しあらせん

とて、ぞ〳〵ぞ定めぞけるぞ、仁明天皇御子ぞ時康親王

○光孝天皇ヲイフ　ぞ〳〵、式部卿の宮ぞ御ましけるを迎へ

とゞめ〳〵、信ぶつ給へりけるを、是ぞ光孝天皇ぞ

宇治大納言物語下卷　関白殿○基經ヲイフ　をはじめて、世の人

せなんと歎あひ給へどこのなりぞ、いさゝかものどもを、ぞ

ぞつめて、くちなきぞ猛をいくらとも、なく養ませ、猫ぞ鼠を

ぞとを、犬猿などをたゞこのちにて、教させ給ふぞあるに、

まてゝ、ある人を求ぞ給へ、うちとろさせ給ひ

て、いくちともなく人死ぬる事、関白ぞ昭宣公などぞて、

とゝ、すちなり、信を御ろしゝ給をむとおぼして、さを
ぬぎて文宮とゝ又近き御門の侍ぞう殿、源氏小宋殿へる
なりを見給ひき殿ふゝ、大臣心えてとゝ見えむとつくろひ
きゝめき何ゝ殿へ給へ、つきづきしくいみじきを、とれもとゝ
見もとゝも見えぞと物ぼしく、小袿姿（○時康親王ノ宮ニテ即光孝天皇ナリ）
へ給りて山田中させ給へば、さ多ゝせ給ぬとて、志ぼしなて
入給りて、とみゝ出させ給ふとあぐを
殿ふぞ出給へる、ふゝめき神さびて侍衣も恭しうそ見
ゆ、何事ゝ立ゝさせ給ひしぞ、ゝて、
とゝの給ひしるゝ事もよく御ぼしまを、信ゝつさせ給ひしをん
かゝ御ぼしまなんと見給を給ひて、かゝゝとゝ給へを、
いつをゝと問ゝ給へば、殿へば御ゝさふらひぬ給へれば、あさ
て日もとく侍へ、ゝ日とて侍ゝ給ひぬ、さて内ふゝり給へ

れば（○基經ノ内裏ヘ歸リ參リタルナリ）木ゝ人をのぼせて、うちとろ〳〵たるを
尊ゝて、ゝ〳〵笑ひ我もわらひ入て御はします、いとゝさま、
御ゝ（○基經ヤ殿ヘ、つまゝ御ゝ侍ゝ）ゝ侍ゝ給へ馬も敷きん
し侍ふゝ、行幸ゝて侍給ふゝ、いゝ
ゝとゝ給ひて、いつゝとゝ作らるれば、あさてゝ給へば、
ゝとゝびて、いつゝかと御勢給ふ、生日ふ成ぬれば、かんゝちめ
殿上人ゝ集りて、ゝ〳〵をゝ給へ、年老い来ぬる
まゝ人〳〵つゝうまつりて、物出給へ
し奉まつ、さてゝ殿ふゝ物狂ゝ〳〵人を殺給ひて、世
うせ侍ひぬべれば、ゝ〳〵給へば給ひて、
給ひて、怨ゝ給ひ給ふ、ゝ給ひ給ふ
りける

⑦ 花山天皇

日本紀略　花山院云云寛和二年六月廿三日庚申、今暁丑刻
天皇密々出禁中向東山花山寺落飾、于時藏人左少辨藤原道
兼奉従之、先于天皇密奉劔璽於東宮〇東宮ハ懐仁親王ニテ即一條天皇ナリ　出
宮内云云年十九
榮花物語オナ山　中納云なども侍者走ぐちふつかうまつりはほ
ぐるふ、寛和二年六月廿二日辛未〇廿二日トアルハ誤ナリ　廿三日ノ夜トアルベシ　傳
ふうせさせ給ひぬとの事なる、うちのそこらは殿上人かんさちべ、
何やかやは衛士仕丁ふ亟るまで、殊なる慶なくうちめきたるふ、
四位ふ出たまふ、おほきおとどよりはじめ免諸卿殿上人
はあまたあり集りて、盃をさへ人々まるふ、いづくふこのやおもはさ
ん、あさましういとうて、一天下あぞりて泣はうちふおもく
さわぎたまふ
大鏡巻一〇大慈光院本　寛和二年丙戌六月廿二日の夜ふかさまくれ

しまを、人ふも知られさせ給ふで、ふそのふ花山寺ふおもむ
かせ給ふ、法出家入道せさせ給へまふとて、御年十九、治天下
二年、さ後廿二年ぞおはしまさふ、あられふけるとて、おを
おはすまふける袖ふ、藤壺はらへの住屋のうちより出させ給ひ
けるふ、有明の月のいとをもしろうふかりければ、見給ふてあり
られ、いとをもしろうふと仰せられけるを、うちそとまふせ給ふ
べきやうはなどて、神璽寶物渡りいはるるはと、栗田殿のさを
ぐしゃ給ひけるふ、いまぞ帝出させおはしまさでりけるさ
きふ、まづのちとまふて、東宮〇東宮ハ懐仁親王ニテ即一條天皇ナリ　乃御方ふ渡
しまふまふければ、還至いとせ給ふん事いあるまじくおぼして、
ちかうさせ給ひる事ぞ、さやけさ新まぞ思ひおぼめ
ける程ふ、月のおもしろふ雲はこりておしてとかり
ければ、うぐ出家遂ぬるなをけまと仰せられて、あるを

出させ給ふ云云花山寺におもむき給ひ、ついで給ふ、おろさせ給ひてのち、粟田殿いまだ参内せざるまに、必ず参り給らんとて、かくと密奏申て、今一度召さるべきなりとて、法皇召されければ、我をばたのまぬなりとて、法皇召されぬ、ふかの事きこえなり

○文ニ天皇手ヅカラ神器ヲ取テ東宮ニ渡ストアルハ、人ヲシテ渡サシメタルナリ、其ノ人トイフハ恐ラクハ藤原道綱ナラン、其ノ故ハ古鈔本、所謂道邇院殿本ノ栄花物語花山ノ巻ノ書入ニ、寛和二年六月廿二日天皇密以左近少将藤原道綱被奉璽劔東宮御所凝花舎ニ俄於東山花山御出家、召権僧正尋禅出家入道御名入覚トアリ、

○仲恭天皇

百練鈔巻十二　承久三年七月八日云云今日一院○後鳥羽天皇ヲイフ并修明門院於鳥羽殿御出家云云主上○仲恭天皇ヲイフ密々渡御九條殿云云○仲恭天皇ノ遜位ヲイヘリ、是ノ時ニ當テ天皇ニ神器ヲ新主ニ傳ヘテ、而シテ後位ヲ避ケタルニ非ズ

皇年代略記下巻　承久三年辛巳四月廿日甲戌受禅四七月九日辛卯廢之四神璽鏡劔弃置閑院密令退九條第給、未即位○仲恭天皇神器ヲ弃テ九條第ニ退クトアルニテ、遜位ノ情実ヲ知ルベシ、未即位トハ天皇未ダ即位ノ礼ヲ行ハザルヲイフ

東鑑巻廿五　承久三年七月九日云云先帝○仲恭天皇ヲイフ於高陽院皇居遜位密々行幸九條院、戌尅新帝○後堀河天皇ヲイフ自持明院殿被還御閑院車其間自持明院迄于禁裏軍兵警衛路次云云

神皇正統記下巻　廃帝諱ハ懐成、順徳の第子、御母ハ東一條院藤原氏の立子、故摂政太政大臣良経公の女なり、兼久三年書始頃より、上皇思しめし立事ありしかば、儲の位譲国し給ふ、順徳御死をこうるをもて合戦のうるをも、ひとへに御心ゆるせ給ちん御事ぞとぞ申、彰子○懐成親王ニテ即仲恭天皇ナリ位譲位ノ宣しくゆく、即位登壇までもなくて軍やぶれしかば、外戚源通親の大臣の九條の第へ落のれさせ給ふ、三種の

神器をば固辭の内裏ふたゝび奉たゝまつり、讓位ありのち七十七ケ日ありて、ようやく神器を使人給ひ、ひとゝのゝち、日嗣ふたゝび

かゝるまらぬ、仮令ばかりの皇位ふあぞくへ、ゆにとて

皇位ヲ遜レタルヲイフ、然ルヲ増鏡巻一（新島ニ云ク、七月九日門門をもおろしたてまつりき、この卯月のとよ、譲位とてめでさうしふ芳のやうあり、七十餘日ふておほ餘へるさめしも、これやむとめふるらん、もろてしふぞ日十ふ日とのや位ふおはそるれいありるとゝ、うらのふみよみしへ人のいひしこゝちそる、うやうめらざれやありけむ、トアルハ自他タガヘル記シザマナリ、仲恭天皇此ノ一乱ニヨリテ自ラ御位ヲ遜レタルナレバ、打見ル所ハ北條氏ノ強テ皇位ヲ降シ、如クナレバ、此ノ如クモ記セル者カ

北條九代記巻六　懐成親王（○仲恭天皇ヲイフ）ハ新院（○順徳天ノ御ユヅリヲウケサセ給ヒケレ共、御即位ノ式モ調ノハズ、程ナク此乱（○承久三年乱ヲイフ）アリシカバ、三院トモニ遠島ニウツサレサセ給ヘバ、關東ヨリ計ヒ申テ僅カニ九十餘日ニシテ御位ヲオロシ奉リ、九條ノ廢帝ト申テ、王代ノ數ノ外ニゾオハシマス（○仲恭天皇自皇位ニ即ク、而シテ後仲恭天皇ヲ以テ降シテ親王ト為スヲ聞カズ、然ラバ則唯タ先帝ト称セシ歟、承久軍物語ニセンていト見エ、皇代暦ニハ九條先帝ト見エ、皇紀紹運録ニハ九條廢帝ト見エ、皇代記ニハ廢帝ト見エ、而シテ又天皇ヲ以テ太上天皇トセシヲ聞カズ）

廢位

廢位トハ天皇事故アリ、前天皇因テ皇位ヲ廢スルヲイフ、陽成天皇仲恭天皇ノ如キハ、自ラ皇位ヲ避ケシナリ、故ニコレヲ以テ廢位トハイフ可カラザルナリ

○淳仁天皇

淳仁天皇紀　天平寶字八年十月壬申高野天皇（○孝謙天皇ヲイフ）遣兵部卿和氣王左兵衛督山村王外衛大將百濟王敬福等、率兵數百圍中宮院、時帝遽而未及衣履、使者促之數輩、侍衛奔散無人可從、僅與母家三両人歩到圖書寮西北之地、山村王宣詔曰

掛末久毛畏朕我天先帝乃御命○聖武天皇以天朕仁勅之久天下方朕子伊末之仁授給事乎之云方王乎奴止成止毛奴乎王止云止毛汝乃為末仁假令後仁帝止立天在人伊立乃後仁汝乃多米仁無禮之豆不従奈賣久在乎人方帝乃位仁置許止不得又君臣乃理仁従天貞久浄岐心乎以天助奉侍之帝止在已止得止勅岐可久在御命乎朕又一二乃豎子等止侍天聞食天在然今帝止之侍人乎此年已呂見仁其位仁不堪○淳仁天皇ハ其ノ位ニ堪ヘザル者ト、孝謙天皇ノ詔セシナリ是乃味仁不在今聞仁仲麻呂止同心之天竊朕乎掃止謀家利又竊六千乃兵乎發之等等乃比又七人乃味之天關仁入牟止謀家利精兵乎之押之非天壞亂天罰滅止云家利故是以帝位乎退賜天親王乃位賜天淡路國乃公止退賜止勅御命乎聞食止宜○孝謙天皇詔シテ淳仁天皇ノ位ヲ廃シテ、更ニ親王トシ、淡路公ト為スヲイフ、コノ淡路公ハ、姓氏ニ上毛野君下毛野君ト云フトハ別ニテ、藤原不比等ヲ淡海公ニ封ズナドト同例ナリ、姓氏ト混ズベカラズ事畢将公及其母到小子門、

庸道路鞍馬騎之右兵衛督藤原朝臣藏下麻呂衛送配所幽于一院勅曰以淡路國賜大炊親王國内所有官物調庸等類任其所用但出舉官稲一依常例又詔曰船親王波九月五日尓仲麻呂止二人謀家良書作豆朝庭乃咎計豆将進等謀家利又仲麻呂何家物計夫流書中尓仲麻呂等通家流謀乃文有是以親王乃名波下豆諸王等成豆隠岐國尓流賜布又池田親王波此夏馬多集天事謀止所聞支如是在事阿麻多太比所奏是以親王乃名波下賜天諸王等志豆土佐國尓流賜布詔大命乎聞食止宜○仲恭天皇ノ御兄船親王池田親王モ亦罰セラレテ、親王ヲ降シテ諸王トナスヲイヘリ

水鏡下巻　十月九日ゑ上天皇○孝謙天皇ヲイフ　つくものを起してて内裏をかくみ給ひしかば、宮のうちは候し人々皆ゆげ失せぬしかば、帝○淳仁天皇ヲイフ　母又そばつのまらの上人二三人ばかりをひ具しつゝ、歩行みてて図書寮の方ゆ出ぬ

へりしふこそへ、少納言むつひ奉りて、位おりゝ給ふ中に宣命をは讀うけ奉りしに、そ位をうりち孫ゝ位をきうつきものみおはせぬふ所はせて、仲丸と同じ位をゝ、素をそなりんとはうを給ひうを、去りれば帝の位を退け給ひて親王の位を孫ゝ奉りて、淡路の國へ流奉り孫ひてき、心うく侍りし事なり○此ノ書ニ淳仁天皇ヲ淡路廢帝ト記セリ、續日本紀ニハ廢帝ト記セリ

神皇正統記中巻　第四十七代淡路廢帝　云云戊戌の年即位、天下治定孫ゝ事六年、事有て淡路の國へうつされ孫ひき

皇代記上巻　淡路廢帝云云天平寶字八年甲辰十月退帝位賜親王号年廿三為淡路公賜淡路國高野天皇重祚

皇年代略記上巻　廢帝云云天平寶字八年甲辰十月日退帝位賜親王號為淡路公即賜當國廿二天平神護元年乙巳九月薨廢位一年稱淡路廢帝○廢位ハ前天皇アリテ、當天皇ノ皇位ヲ廢スルヲ、淳仁天皇即チ是ナリ、淳仁天皇ノ皇位ヲ廢セラルヽト、仲恭天皇ノ自ラ皇位ヲ遜ルヽト異ナル所アルコトハ、各條ニ引ク所ノ書ヲ認メテ知ルベシ、而シテ諸書ニ並ニ廢帝ト称スル正シカラズトイフベシ

廢位異例

廢位異例トハ、天皇事故アリ、前天皇因テコレヲ廢スルヲイフ、今此ニ其ノ異例ノ名ヲ設クル者ハ、天皇在テ別ニ帝ヲ稱スル者アリ、天皇乃チ其ノ帝ヲ稱スル者ノ位ヲ廢シ、而シテ後太上天皇ノ號ヲ上ルヲイフ

光嚴天皇　崇光天皇

○光嚴天皇

皇年代略記下巻　光嚴院云云正慶二年三月十二日主上光○

嚴天皇ヲイフ 幷両院○後伏見天皇花園天皇ヲイフ 幸於六波羅内侍所同渡御、以北方為皇居、聞二月以来、伯州主皇子後醍醐天出御、天下擾乱之故也、當所探題仲時時益奉保護了 五月七日六波羅城敗績、仲時等奉伴主上上皇○光嚴天皇後伏見上皇花園上皇ヲイフ 以下赴東國於江州番場仲時時益等自殺、三主以下御逗留 同十日遷御伊吹山、太平護國寺暫以此所為御在所 両院以下又同御此寺、此間為伯州詔命奉退皇位元号又廢正慶二年 更復元弘三年 同七月八日自江州還幸於京師、十二月十日被獻太上天皇尊號、同日被獻隨身兵杖○光嚴天皇ヲ以テ太上天皇ト為スヲイヘリ 皇代暦下巻 光嚴院云云 正慶二年三月十二日依天下亂行幸六波羅、五月十日赴東國、同廿五日以後廢帝、同年十二月十日太上天皇尊號

神皇正統記下巻 官軍カ多得ルトヽ、五月八日都ヲ出る軍○此條氏ノ兵ヲイフ 皆やぶれて、あづまへ心ざして落行しかば、安院○後伏見花園両院ヲイフ 新帝○光嚴天皇ヲイフ 同ト云ヒ、江北國

馬場ならふ處あて、公家○後醍醐天皇ヲイフ にむざ〳〵ひろ軍ヲ出さるれば、武士ども戰ふまでもなく、多くも自滅しぬ、両皇新帝を都ふかく奉り、官軍ら れを守護ゆき、かくて都より西ざゝ程なく、静まりぬと申さるゝ事ハなん云云 いつしこの賞罰ハ行なゝ、両院新帝をば、あづまへ移ひて、都京師ニ還幸アリシヲイフ 諫ふめづらの事ハ申さ ふ位ませ給ふ、されど新帝を儲ける儀ハ、正位ハは用ゐられず、改元して正慶といひしを、本位ならず元弘と号せらる

太平記巻九 去程ニ五宮ノ官軍ドモ、主上○光嚴天皇ヲイフ 上皇○後伏見花園ノ両上皇ヲイフ ヲ取進セテ、其日先長光寺ヘ入奉リ、三種神器幷玄象下濃二間ノ御本尊ニ至ルマデ、自五宮ノ御方ヘゾ被渡ケル

保暦間記下巻　先帝○後醍醐天皇ヲイフ　攝津國西ノ宮迫御上有リ、同六月四日東寺ヘ入セ給テ、同五日ニ威儀ヲ調テ則内裏ヘ入セ給テ、重祚有キ○重祚トセシハ非ナリ重祚ノ部見ルベシ　先帝位ニ付セ賜ヒケレバ、後伏見院并先御門○花園天皇光厳天皇ヲイフ　ハ何ナル目ヲカ見ズラント思食歎セ給ケレド、天照大神御計ニヤ、無子細テ都ニ御坐ス、何ニモ後ニ事アルベキニヤトゾ申ケル○此ノ書後醍醐天皇ヲ先帝ト称シ又重祚トイヘルナドハ皆非ナリ、採用スベカラザルナリ、取ルベキモノハ唯其ノ事実ノミ

○崇光天皇

皇年代略記下巻　崇光院云云　觀應二年十一月七日奉廢之武将和睦賀名生君申行之廢親應号為正平六年十二月廿三日被渡内侍所并神璽於南方○崇光天皇廢セラルヽニ及テ、神器ヲ後村上天皇ニ奉ル、而シテ此ノ神器ヲ真ノ神器ニ非ズ、後醍醐天皇ノ建武三年十一月二日、花山院ニ於テ光明天皇ニ渡サレシ所ノ偽器ナリ　同廿八日被奉太上天皇尊號於南方行宮宜下云由翌年正月三日被告申十衍八年　三年閏二月廿日依新主天氣○新主天氣トハ後村上天皇ノ部アルヲイフ　渡御八幡軍陣西上皇御同車云云○西上皇ハ光厳上皇光明上皇ヲイフ　三月三日奉移河州東條云云○崇光天皇ニ廢セラルヽヲイフ

皇代記下巻　崇光院云云　觀應二辛卯年正平六年十一月、正平六年云云此年号暫時、太平記巻卅　足利宰相中將義詮朝臣ハ、將軍○尊氏ヲイフ　鎌倉ヘ下リ給シ時、京師守護ノ為ニ被殘坐シケルガ、關東ノ合戰ノ左右ハ未聞、京師ハ以外ニ無勢ナリ、角テハ如何様和田楠ニ被寄テ無云甲斐京ヲ被落ヌトオボシケレバ、一旦事ヲ謀テ暫ク洛中ヲ無為ナラシメン為ニ、吉野殿○後村上天皇ヲイフ　ヘ使者ヲ立テ、自今以後ハ御治世ノ御事ト、國衙郷保并ニ本家領家年来進止ノ地ニ於テハ、武家一向其綺ヒヲ可止ニテ候、只承久以後新補ノ率法並ニ國々守護職地頭御家人所帯ヲ武家ノ成敗ニ被許テ、君臣和睦ノ恩惠ヲ被施候バ、武臣七德ノ干

戈ヲ收メテ、聖主萬歳ノ寶祚ヲ可奉仰ト頻ニ奏聞ヲゾ被経ケル、依之諸卿僉議有テ先ニ直義入道和睦ノ由ヲ申テ言下ニ變ジヌ、是モ又偽テ申ス條無子細覺レ共、謀ノ一途タレバ先義詮ガ被任申旨帝都還幸ノ儀ヲ催シ、而シテ後ニ義詮ヲバ畿内近國勢ヲ以テ退治シ、尊氏ヲバ義貞ガ子共ニ仰付テ則被追罰ニ何ノ子細カ可有トテ、御問答再往ニモ不及御合體ノ事子細非ジトゾ被仰出ケル、両方互ニ偽給ヘル趣誰カハ可知ナレバ、此間持明院殿方ニ被拜趨ケル諸卿皆賀名生殿（後村上天皇ノ皇居ヲイフ）ヘ被参先當職ノ公卿ニハ二條關白太政大臣良基公云云禪律ノ長老寺社ノ別當神主ニ至ルマデ、我先ニト馳参リケル間、サシモ淺猿シク賤シゲナリシ賀名生ノ山中如花隠映シテ、如何ナル辻堂温室風呂マデモ幔幕引カヌ所モ無リケリ、今參候スル所ノ諸卿ノ叙位轉任ハ、悉持明院殿ヨリ被成タル官途ナレバトテ、各一級一階ヲ被貶ケルニ云云山中伺候ノ公卿殿上人ヲバ、多年勞功アリトテ超涯不次ノ賞ヲ被行ケル間、窮達忽ニ地ヲ易ヘタリ云云憂カリシ正平六年ノ歳晩テ、アラタマノ春立ヌレトモ、皇居ハ猶モ山中ナレバ、白馬踏歌ノ節會ナンドハ不被行云云二月廿六日主上（後村上天皇ヲイフ）己ニ山中ヲ御出有テ、瑤輿ヲ先東條ヘ被促、劔璽役人計衣冠正シクシテ被供奉、其外月卿雲客衛府諸司ノ尉ハ、皆甲冑ヲ帯シテ前驅後乗ニ相從フ云云同十九日八幡ヘ行幸成テ、田中法印ガ坊ヲ皇居ニ被成、赤井大渡ニ關ヲ居テ、兵山上山下ニ充満タルハ、混ラ合戰ノ御用意ナリト洛中ノ聞エ不穏依之義詮朝臣法勝寺慧鎮上人ヲ使ニテ、臣不臣ノ罪ヲ謝シテ勅免ヲ可蒙由申入ル、處ニ、照臨己ニ下情ヲ被恤、上下和睦ノ義事定リ候ヌル上ハ、何事ノ用心カ候

ベキニ、和田楠以下ノ官軍等混ラ合戦ノ企アル由承及候、如何様ノ子細ニ候ヤラント被申タリ、主上直ニ上人ニ御對面有テ、天下未ク恐懼ヲ懷ク間、只非常ヲ誡メン爲ニ官軍ヲ被召具トイヘドモ、君臣已ニ和睦ノ上ハ更ニ異變ノ義不可有、縱讒者ノ説アリ共胡越ノ心ヲ不存バ、太平ノ基タルヘシト勅答有テゾ被返ケル、綸言已ニ如此士女ノ説何ゾ用ル處ナラントテ、義詮朝臣ヲ始トシテ京都ノ軍勢曽テ今被出秡トハ夢ニモ不知、由断シテ居タル處ニ、同二十七日ノ辰ノ刻ニ中院右衛門督顯能三千餘騎ニテ、鳥羽ヨリ推寄テ東寺ノ南羅城門ノ東西ニシテ旗ノ手ヲ解キ、千種少將顯經五百餘騎ニテ丹波路唐櫃越ヨリ押寄テ西七條ニ火ヲ揚ル、和田楠三輪越知真木神宮寺其勢都合五千餘騎、宵ヨリ桂川ヲ打渡テマダ篠目ノ明ヌ間ニ、七條大宮ノ南北七八町ニ村立テ閑ヲゾ揚タリケル、東寺大宮ノ時ノ聲七條口ノ烟ヲ見テ、スハヤ楠寄タリト京中ノ貴賤上下還騰グ事不斜云云細河讃岐守ハ被討ヌ、陸奥守ハ何地共不知落行ヌ、今ハ重テ可戰兵無カリケレバ、宰相中將義詮朝臣僅ニ百四五十騎ニテ近江ヲ差テ落給フ云云去程ニ敵ハ都ヲ落タレドモ、吉野ノ帝○後村上天皇ヲイフハ洛中ヘ臨幸モ不成只北畠入道准后顯能卿父子計リ、京師ニ坐シテ諸事ノ成敗ヲ司リ給テ、其外月卿雲客ハ皆主上御坐ニ付テハ幡ニゾ伺候シ給ケル、同二十三日中院中將具忠ヲ勅使ニテ、都ノ内裏ニ御座ス三種神器ヲ吉野ノ主上ヘ渡シ奉ル○崇光天皇ノ神器ヲ後村上天皇ニ渡シ奉ルヲイフ是ハ先帝○後醍醐天山門ヨリ武家ヘ被渡タリシ物ナレバトテ、璽ノ御箱ヲバ被棄、寶劍ト内侍所トヲバ、近習ノ雲客ニ被下テ、衛府ノ太刀裝束ノ鏡ニゾ被成ケル、ゲニモ誠ノ三種神器ニテハナケレドモ、

巳ニ三度大嘗會ニ逢テ、毎日ノ御神拜清暑堂ノ御神樂、二十餘年ニ成ヌレバ、神靈モナドカ無カルベキニ、餘ニ無恐凡俗ノ器物ニ被成ヌル事、如何アルベカラント申ス族モ多カリケリ、同二十七日北畠右衛門督顯能兵五百餘騎ヲ卒シテ、持明院殿ヘ參リ、先其邊ノ辻辻門門ヲ堅メサセケレバスハヤ武士共ガ參テ院内ヲ失ヒ進ラセントスルハトテ、女院皇后御心ヲ迷ハシテ臥沈マセ給フ、内侍上童上臈女房ナドハ、向後モ不知逃フタメイテ此彼ニ立吟ス、サレドモ顯能卿穩カニ西ノ小門ヨリ參テ、四條大納言隆蔭卿ヲ以テ、世ノ靜リ候ハン程ハ、皇居ヲ南山ニ移シ進ラスベシトノ勅定ニテ候ト被奏ケレバ、兩院〇光嚴天皇光明天皇ヲイフ主上〇崇光天皇ヲイフ東宮〇直仁親王ヲイフアキレサセ給ヘル計ニテ、兒角ノ御言ニモ不及、只御泪ニノミシヲレサセ給テ、羅穀ノ御袂ヲ絞計ニ成ニケリ、良暫有テ新院〇光明天皇ヲイフ御泪ヲ押テ被仰ケルハ、天下乱ニ向フ後僅ニ帝位ヲ雖踐、叡慮ヨリ起リタル事ニ非レバ、一事モ世ノ政ヲ御心ニ不任、北辰光消テ中夏道闇キ時ナレバ、共ニ椿嶺ノ陰ニモ寄リ、遠ク花山ノ跡ヲモ追ハバヤトコソ思召ツレドモ、其モ叶ハヌ折節ノ憂サ、豈叡察ナカラシヤ、今天運膺圖萬人望ヲ達スル時至レリ、乾臨曲テ恩免ヲ蒙ラバ、速ニ釋門ノ徒ト成テ、邊鄙ニ幽居ヲトンシト思フ、此一事具ニ可有奏達ト被仰出ケレ共、顯能再往ノ勅答ニモ不及、已ニ綸命ヲ蒙ル上ハ、押ヘテハ如何カ奏聞ヲ經候ベキトテ、御車ヲ二兩差寄セ、餘ニ時刻移候ト急ケバ、本院新院主上春宮御同車有テ、南ノ門ヨリ出御ナル云云鳥羽マデ御幸成タレバ、夜ハ早若々ト明ハテヌ、此ニ御車ヲ駐メテ、怪ゲナル籤輿ニ名替サセ進セ、日ヲ經テ吉野ノ奥賀名生ト云フ所ヘ御幸成シ奉ル〇正平六年後村上

天皇ノ崇光天皇ヲ廢セシコト、太平記ニ記スル所甚委シ故ニ事長ケレド此ニ載セ、以テ其ノ情実ヲ詳ニス

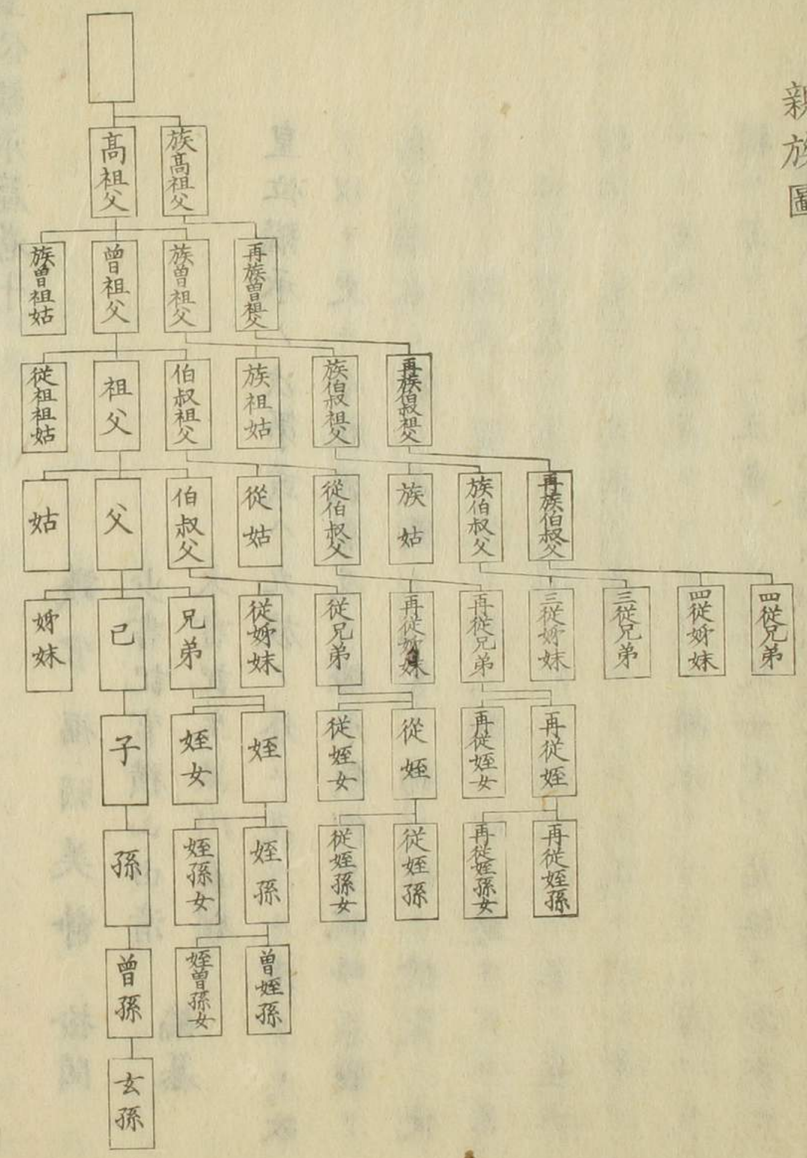
皇位繼承篇巻九終

皇位繼承篇巻十

議官　福羽美静　撿閲
少書記官横山由清
大書記生黒川真頼　編纂

皇位繼承ノ次第或ハ九族ノ外ニ及ベル者アリ、故ヲ以テ更ニ今親族圖及ビ繼承類例皇統略系圖ヲ爲リ、繼承ノ圖ヲ系圖ノ上層ニ掲ゲ以テ捷覧ニ便ズ、其ノ繼承ノ圖ニ施ス所ノ、線ヲ以テ連ネタル系ハ親族等級ノ系ナリ、點ヲ以テ續ケタル系ハ皇位繼承ノ系ナリ、其系ノ及バントシテ及バザル者アルハ皇位ヲ繼承スベクシテ繼承セザリシ者ナリ、觀ル者コレニ注意スベシ、又女主ノ皇位ヲ繼承セシ大意ヲ巻末ニ附シテ以テ參考ニ備フ

親族圖



繼承類例

父ノ後ヲ子ノ繼承セシ例

父天皇崩ズ子皇太子嗣グ、父天皇讓ル子皇太子受ク、父天皇崩ズ子親王皇子内親王皇女嗣グ、父天皇讓ル子親王皇子内親王皇女受クルノ類ナリ、但シ事故アル者ハ再タビ別條ニ掲グル者アリ、綏靖天皇ハ父ノ後ヲ子ノ繼承セシ例ナレドモ兄ヲ超テ弟ノ繼承セシ條ニモ再タビ掲グルノ類ナリ、以下皆コレニ倣ヘ

六十二帝　綏靖　安寧　懿德　孝昭　孝安　孝靈　孝元　開化　崇神　垂仁　景行　成務　應神　仁德　履仲　安康　清寧　武烈　安閑　敏達　弘文　孝謙　桓武　平城　文德　清和　陽成　宇多　醍醐　朱雀　冷泉　後冷泉　白河　堀河　鳥羽　崇德　二條　六條　安德　土御門　仲恭　四條　後深草　後宇多　後伏見　後村上　後亀山　後圓融　稱光　後土御門　後柏原　後奈良　正親町　後水尾　明正　東山　中御門　櫻町　桃園　仁孝　孝明　今上

兄ヲ超エテ弟ノ繼承セシ例

二帝 綏靖 顯宗

祖父ノ後ヲ嫡孫ノ繼承セシ例

一帝 後陽成

祖母ノ後ヲ嫡孫ノ繼承セシ例

一帝 文武

兄ノ後ヲ弟ノ繼承セシ例

二十帝 反正 允恭 雄略 宣化 欽明 用明 崇峻 嵯峨 光明 後光嚴 後西院 靈元 淳和 村上 圓融 後朱雀 後三條 近衛 順德 亀山 後光明

姉ノ後ヲ弟ノ繼承セシ例

二帝 孝德 後光明

伯父ノ後ヲ姪女ノ繼承セシ例

一帝 皇極

叔父ノ後ヲ姪ノ繼承セシ例

二帝 仲哀 花山

叔父ノ後ヲ姪女ノ繼承セシ例

一帝 持統

姑ノ後ヲ姪ノ繼承セシ例

二帝 聖武 後桃園

從伯父ノ後ヲ從姪ノ繼承セシ例

一帝 後一條

從姑ノ後ヲ從姪女ノ繼承セシ例

一帝 元正

從祖祖姑ノ後ヲ姪孫ノ繼承セシ例

一帝 舒明

族叔祖父ノ後ヲ從姪孫女ノ繼承セシ例

一帝 稱德

從兄弟ノ後ヲ從兄弟ノ繼承セシ例

三帝 一條 三條 伏見

再從兄弟ノ後ヲ再從兄弟ノ繼承セシ例

五帝 顯宗 後嵯峨 後二條 花園 後醍醐

族兄弟ノ後ヲ族兄弟ノ繼承セシ例

一帝 後花園

四從兄弟ノ後ヲ四從兄弟ノ繼承セシ例

一帝 繼體

弟ノ繼承スベキヲ兄ノ繼承セシ例

一帝 仁德

弟ノ後ヲ兄ノ繼承セシ例

二帝 仁賢 後白河

弟ノ後ヲ姉ノ繼承セシ例

三帝 推古 齊明 後櫻町

姪ノ後ヲ叔父ノ繼承セシ例

二帝 天武 高倉

姪孫ノ後ヲ叔祖父ノ繼承セシ例

一帝 光孝

從姪ノ後ヲ從姑ノ繼承セシ例

一帝 元明

從姪ノ後ヲ從伯父ノ繼承セシ例

一帝 後堀河

從姪孫女ノ後ヲ族叔祖父ノ繼承セシ例

一帝 淳仁

再從姪ノ後ヲ族叔父ノ繼承セシ例

一帝光格
再従姪孫女ノ後ヲ再族伯祖父ノ繼承セシ例
一帝光仁

皇統畧系圖

皇位ノ繼承ヲ分類スレバ綏靖天皇ヨリ今上ニ至テ凡テ廿八種ナリ、其ノ中ニ父ノ後ヲ子ノ繼承セシ例ハ、系圖ニ於テ一目瞭然ナレバ煩シク贅セズ、其ノ他兄ヲ超エテ弟ノ繼承セシ例ヨリ以下再従姪孫女ノ後ヲ再族伯祖父ノ繼承セシ例ニ至テ、凡テ廿七種ハ其ノ跡ノ異ナル者ニシテ、施ス所ノ等親ノ地位モ亦速ニ會得シ難キ者アリ、故ニ皇統畧系圖ヲ作リ繼承ノ圖ヲ其ノ上層ニ記シ、且ツ皇太子日嗣皇子等ノ繼承セズシテ

薨セシ者、其ノ或ハ事故アリテ繼承セザリシ者等ノ傳説ヲ略記シ、併セテ一覽ニ便ナラシム

第一代 神武天皇
- 手研耳命（庶子ナルヲ以テ皇位ヲ繼承セズ、叛クニ及デ誅セラル）
- 神八井耳命（綏靖天皇ノ兄ナリ且日嗣皇子ナレトモ、弟綏靖天皇ノ功德アルニ讓リテ皇位ヲ繼承セズ）
- 第二代 綏靖天皇
- 第三代 安寧天皇
- 第四代 懿徳天皇
- 第五代 孝昭天皇
- 第六代 孝安天皇

〇兄ヲ超エテ弟ノ繼承セシ例

父
- 兄（神八井耳）
- 弟（綏靖）

第十七代 孝靈天皇

第十八代 孝元天皇

第十九代 開化天皇

第十代 崇神天皇

第十一代 垂仁天皇

第十二代 景行天皇

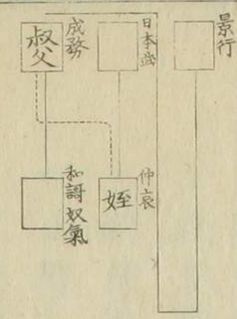
日本武尊

日本武尊ハ日嗣皇子ナレドモ東征シテ途ニ崩ズ、故ヲ以テ皇位ヲ継承スルニ及バズ

第十三代 成務天皇

按ズルニ天皇ハ父天皇ノ意ヲ察シ皇位ヲ子ニ傳ヘズシテ姪仲哀天皇ニ傳フル欤、天皇在世ノ中皇位ヲ立テザリシモ亦以テ見ルベキナリ

○叔父ノ後ヲ姪ノ継兼セシ例



和訶奴氣王

第十四代 仲哀天皇

聾阪皇子

忍熊皇子

聾阪忍熊ノ二皇子ハ並ニ應神天皇ノ兄ナリ、而レドモ皇后ノ生メル所ニ非ズ、故ヲ以テ日嗣皇子ト称セズ、叛クニ及デ誅セラル

此ノ皇子ノ名詳ナラズ、按ズルニ譽屋別皇子歟

第十五代 應神天皇

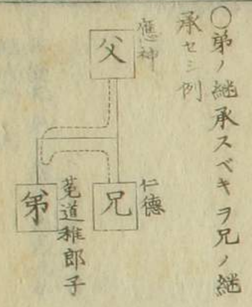
大山守皇子

庶子ナルヲ以テ皇太子ニ立タズ、叛シテ誅セラル

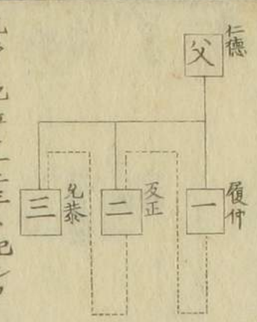
第十六代 仁德天皇

天皇ハ大鷦鷯皇ノ意ニ隨テ皇位ヲ継承ス欲セズ、皇太子菟道稚

○弟ノ継承スベキヲ兄ノ継承セシ例



○兄ノ後ヲ弟ノ繼承セシ例



兄弟ノ地位ニ一二三ト記シタルハ、一子二子三子ノコトニ非ズ、唯順序ヲ知ラシムルノミ

郎子ノ皇子薨ズルニ至テ、已ムコトヲ得ズ皇位ヲ繼承ス

菟道稚郎子皇子

父應神天皇特ニ皇子ヲ愛シ立テ皇太子ト為ス、皇子兄ニ越ユルヲ以テ意ニコレヲ適セリト為ズ、父天皇崩ズルニ及デ皇位ヲ繼承スルヲ辞シテ自殺ス

稚渟毛二派皇子

第十七代

履仲天皇

子孫下ニ出ヅ

住吉仲皇子

皇子ハ兄履仲天皇ニ叛シテ誅セラル

第十八代

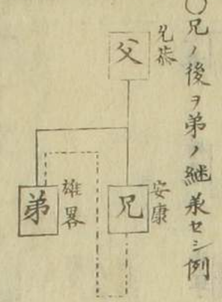
反正天皇

天皇ハ兄履仲天皇ニ忠アリ履仲天皇因テ皇太子ト為ス、但シ履仲天皇皇子無キニアラズ、

第十九代

允恭天皇

○兄ノ後ヲ弟ノ繼承セシ例



天皇ノ兄反正天皇崩ズ嗣無シ、天皇因テ皇位ヲ繼承ス

木梨輕皇子

皇子ハ立テ皇太子タリ、婬乱ナルヲ以テノ故ニ同母弟ノ安康天皇ニ殺サル

第二十代

安康天皇

天皇ハ兄輕皇子ノ婬乱ナルヲ以テ殺シテ皇位ヲ繼承ス、天皇子無シ

第廿代

雄畧天皇

天皇ノ兄安康天皇崩ズ、子無シ因テ立テ皇位ヲ繼承ス

磐城皇子

皇子ハ弟星川皇子ノ叛ヲ援ケテ誅セラル、皇子ハ庶子ナリ

第廿一代

清寧天皇

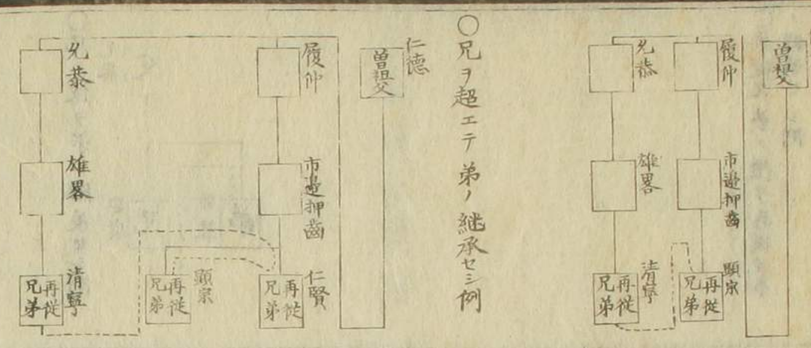
天皇ハ皇子皇女共ニ無シ

星河皇子

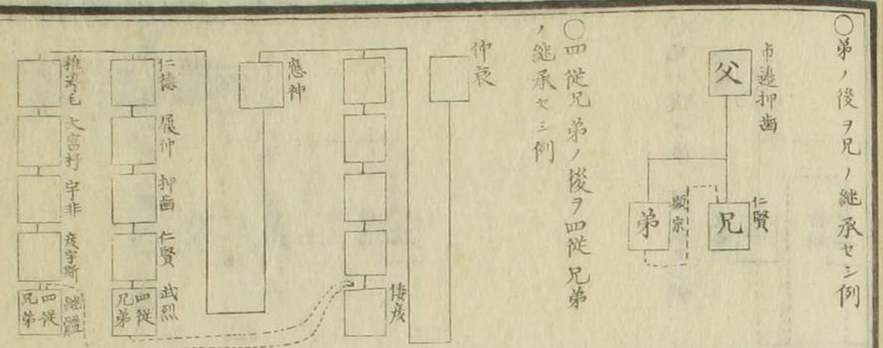
父雄畧天皇ノ命ニ據テ皇子ノ叛センコ

○再從兄弟ノ後ヲ再從兄弟ノ繼承セシ例

○兄ヲ超エテ弟ノ継承セシ例



○弟ノ後ヲ兄ノ継承セシ例



○四從兄弟ノ後ヲ四從兄弟ノ継承セシ例

履仲天皇皇子

市邊押齒皇子

皇子ハ履仲天皇ノ子ナルヲ以テ安康天皇コレニ國ヲ傳ヘント欲ス、果サズシテ崩ズ、雄略天皇コレヲ知ル、安康天皇ノ崩ズルニ及デ皇子俄ニ雄略天皇ニ殺サル、雄略天皇ノ此ノ皇子ヲ殺シ、ハ、代リ立タンコトヲ猜忌セシナルベシ

飯豐青尊

仁賢顯宗ノ二天皇相讓テ皇位ニ即カズ、其ノ間皇女朝ニ臨テ政ヲ聽ク

第廿四代

仁賢天皇

天皇ハ顯宗天皇ノ兄ナリ、而レドモ其ノ弟ノ功勞アルヲ以テ辞シテ皇位ヲ継承セズ、弟天皇崩ズルニ及デ立テ寶位ニ即ク

第廿三代

顯宗天皇

仁賢顯宗ノ二天皇ハ、父ノ難ニ遭ヒシトキ逃レテ播磨ニ走ル、後清寧天皇兄ノ召ス、清寧天皇崩ズ、天皇子無シ

第廿五代

武烈天皇

天皇子無シ

仲哀天皇二世孫

三世孫

四世孫

五世孫

倭彥王

武烈天皇崩ジテ嗣ナシ、群臣相議シテ仲哀天皇五世孫倭彥王ヲ迎ヘ、皇位ヲ継承セシメント計ル、王迎兵ヲ望ミ見テ大ニ驚キ、急ニ山谷ニ逃ル其ノ到ル所ヲ知ラズ

應神天皇二世孫

大富杼王

三世孫

宇非王

四世孫

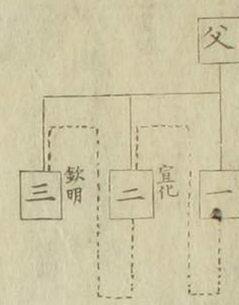
彥宇斯王

第廿六代　五世孫

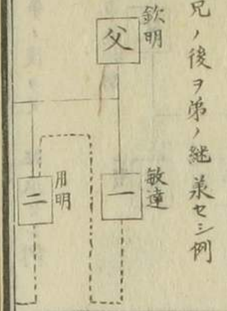
繼體天皇

武烈天皇崩ズ、女嗣無シ、群臣相議シ

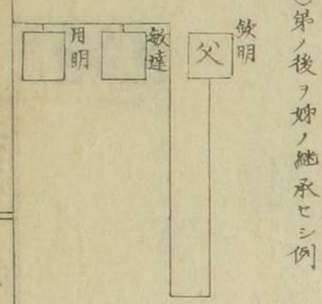
○兄ノ後ヲ弟ノ継承セシ例

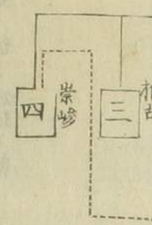


○兄ノ後ヲ弟ノ継承セシ例



○弟ノ後ヲ姉ノ継承セシ例





天皇、五世ノ孫倭彦王ヲ迎ヘント、スルニ、王逃ル、群臣因テ更ニ議ヘテ定メテ、應神天皇五世ノ孫ヲ迎ヘテ之ヲ立ツ、是ヲ継體天皇トイフ

第廿七代
安閑天皇

天皇子アリ而レドモ幼クシテ皇位ヲ継承スルコト能ハザリシ故、其ノ他猶故アル故、

第廿八代
宣化天皇

天皇子アリ、コレモ亦其ノ皇位ヲ継承セザリシ所由ヲ詳ニセズ

第廿九代
欽明天皇

箭田珠勝大兄皇子

皇子ハ父欽明天皇在位ノ中ニ薨ズ

第三十代
敏達天皇

天皇ハ兄箭田珠勝大兄皇子薨ゼシヲ以テ、立テ皇位ヲ継承ス

押坂彦人大兄皇子

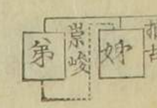
皇子ノ中ニ大兄ト称スルハ日嗣皇子ナリ、皇子ハ大兄ヲ以テ称ス、日嗣皇子ナリシコト見ルベシ、其ノ皇位ヲ継承セザリシ所以詳ナラズ、人或ハイハン皇子ハ日嗣皇子ナリ、而レドモ父天皇在位ノ中ニ薨ゼシナラン、故ヲ以テ皇位ヲ継承スルニ及バザリシナラン、然レドモ尚存在セリ、其ノ故ハ舒明天皇ノ御宇マデ推古天皇ノ元年ニ生ミタレバ皇子ハ推古天皇ノ後尚数子ヲ生メリ

第三十一代
用明天皇

敏達天皇崩シテ後、押坂彦人大兄皇子宜シク皇位ヲ継承スベシ、而レドモ天皇皇位ヲ継承ス、其ノ然ルヲ以テ所以ヲ詳ニセズ、按ズルニ押坂彦人大兄皇子、未ダ幼稚ナルヲ以テ故ナル歟

第三十二代
女主
推古天皇

天皇ノ弟崇峻天皇暴ニ崩ズ、崇峻天皇子アリ、而レドモ群臣コレヲ奉戴セズシテ天皇ヲ奉戴ス、天皇群臣ノ勸進ニ従テ皇位ヲ継承



ス、是本邦女主ノ始ナリ是ノ時ニ當テ押坂彦人大兄皇子厩戸皇子アリ、而レドモ群臣ノ意コヽニ歸セズ、遂ニ女主ニ定マル

穴穂部皇子

用明天皇崩ズ、大連物部守屋獨皇子ヲ立テ天皇トセント欲ス、大臣蘇我馬子等コレヲ不可ナリトス、皇子馬子ニ害セラル

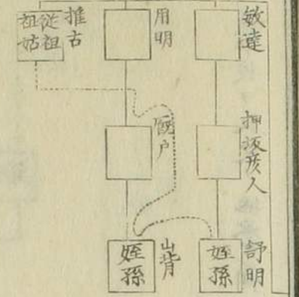
崇峻天皇（第三十二代）

用明天皇崩ズ皇子厩戸皇子アリ、然レドモ姉推古天皇ト群臣トノ勸進ニ從テ皇位ヲ継承ス、既ニシテ天皇大臣蘇我馬子ノ專横ヲ悪ム、馬子コレヲ弑セラル、天皇皇子ニ代ル、

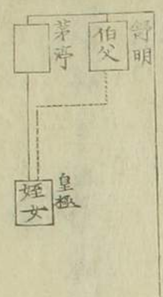
○従祖祖姑ノ後ヲ姪孫ノ継承セシ例

厩戸皇子

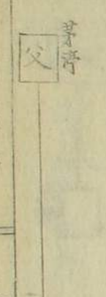
皇子ノ姑推古天皇立ツ、皇子ヲ立テ皇太子ト為ス、推古天皇在位ノ中ニ薨ズ



○伯父ノ後ヲ姪女ノ継承セシ例



○姊ノ後ヲ弟ノ継承セシ例



山背大兄王

舒明天皇（第三十四代 敏達天皇孫 押坂彦人大兄皇子子）

推古天皇崩ズルニ臨テ、天皇鞠ト山背大兄王トニ遺言シテ皇位ノ継承ハ自然ニ定マルニ從ハシメテ、自ラコレヲ冀望セザラシム、天皇ト山背大兄王トハ、共ニ推古天皇ノ兄ノ孫ニシテ姪孫ニ當レリ、群臣相議シテ天皇ヲ勸進ス、天皇乃チ皇位ヲ継承ス

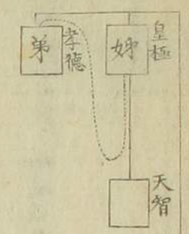
茅渟王

按スルニ茅渟王ハ舒明天皇皇位ヲ継承セザリシ前ニ薨ゼシナラン、舒明天皇即位ノ後薨ゼシナラバ、天皇ノ弟ニ當ルヲ以テノ故ニ茅渟皇子トゾ称スベキ

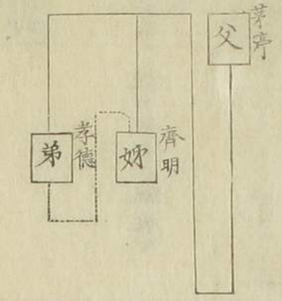
皇極天皇（第三十五代 女主 重祚齊明天皇 第三十七代）

天皇ハ舒明天皇ノ皇后ニシテ天智天皇ノ母ナリ、按ズルニ舒明天

○弟ノ後ヲ姉ノ継承セシ例



○姪ノ後ヲ叔父ノ継承セシ例



第三十六代 孝徳天皇

皇崩ジテ皇子尚幼シ、故ヲ以テ天皇、皇位ヲ継承セシナラン

天皇ノ姉皇極天皇皇位ヲ皇子ニ讓ラズシテ之ヲ天皇ニ傳フ、天皇辞スルコト能ハズシテ皇位ヲ継承ス

有間皇子

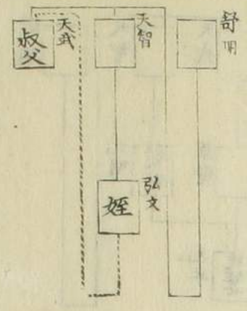
父孝徳天皇崩ジテ後皇子叛シテ誅セラル

古人大兄皇子

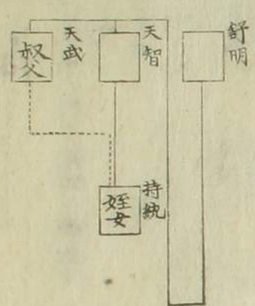
皇子ト中大兄皇子天智皇ト共ニ日嗣皇子ナリ、父舒明天皇崩ズ皇子宣シク皇位ヲ継承スベシ、而シテ皇子ノ時ニ立タザリシコトハ年稚キヲ以テノ故欽、皇極天皇立ツ皇極天皇位ヲ孝徳天皇ニ讓ル、方テ孝徳天皇コレヲ皇子ニ讓ル、皇子固辞シ遂ニ僧トナル、後謀叛ス事覺レテ誅ニ伏ス

第三十八代 天智天皇

○叔父ノ後ヲ姪女ノ継承セシ例



○祖母ノ後ヲ嫡孫ノ継承セシ例



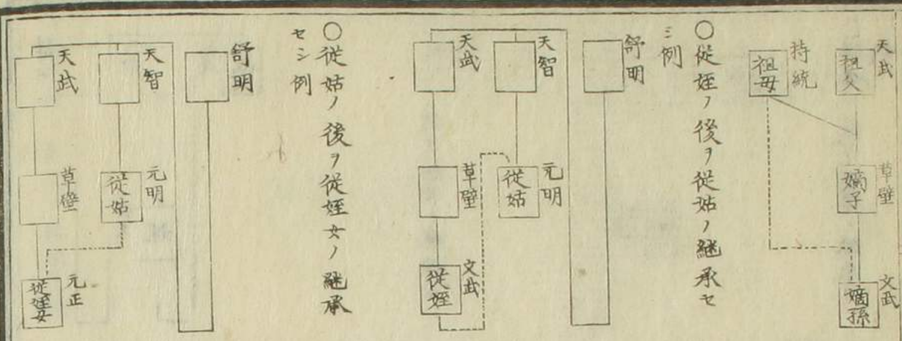
父舒明天皇崩ズ天皇宜シク皇位ヲ継承スベシ、按ズルニ年幼キヲ以テ未ダ立タザル欽、母皇極天皇立ツ、皇極天皇皇位ヲ讓ルニ及デ天皇中臣鎌足ノ策ヲ用ヰテ之ヲ辞シ、叔父孝徳天皇ニ傳ヘントコトヲ奏ス、母天皇コレニ従テ弟孝徳天皇ニ傳フ、孝徳天皇崩ズ、皇極天皇因テ重祚ス是ヲ齊明天皇トイフ、齊明天皇崩ズ、是ニ於テ天皇皇位ヲ継承ス

第四十代 天武天皇

天皇ハ兄天智天皇ノ時立テ皇太弟タリ、天智天皇大漸ニ臨テ皇位ヲ天皇ニ傳ヘントス、天皇固辞ス、天智天皇ノ意ヲ弘文天皇ニ属セルヲ以テナリ、天智天皇崩ズ弘文天皇立ツ、弘文天皇陰ニ天皇ヲ伐タントス謀ル、遂ニ交兵ヲ發シ大ニ戰フ、天皇勝ヲ得タリ因テ皇位ヲ継承ス

第四十一代 持統天皇

女主



天皇ハ叔父天武天皇ノ皇后ナリ、天武天皇崩ズ皇子草壁アリ年未ダ長セズ、故ヲ以テ天皇皇位ヲ繼承ス

女主 第四十三代 元明天皇

天皇ハ皇太子草壁ノ妃ナリ、皇太子草壁ハ持統天皇在位ノ中ニ薨ズ草壁皇子子アリ、天皇ノ生ム所ナリ、立ツ、是ヲ文武天皇トイフ、文武天皇崩ズ、文武天皇子アリ聖武天皇年尚幼シ、其ノ長ズルヲ埃ツ間天皇位ヲ繼承ス

第三十九代 弘文天皇

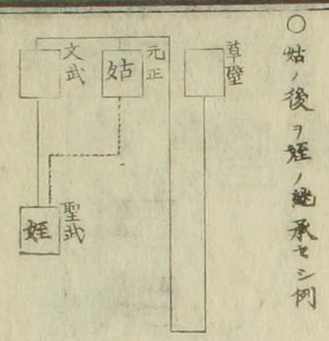
天皇ハ叔父天武天皇ヲ討ントシテ反リテ破ラレテ自殺ス

施基皇子

草壁皇子

皇子ハ母持統天皇ノ在位ノ中ニ薨ズ

舍人親王



新田部親王

高市皇子

皇子ノ兄草壁皇子薨ジテ後皇太子ニ立ツ、持統天皇在位ノ中ニ薨ズ

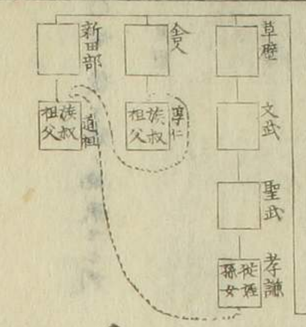
女主 第四十四代 元正天皇

從姑元明天皇皇位ヲ聖武天皇ニ傳ヘンズ、故ヲ以テ天皇皇位ヲ繼承シ、以テ聖武天皇ノ長ズルヲ埃ツ

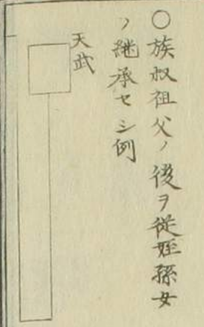
第四十五代 文武天皇

天皇ノ父草壁皇子皇位ヲ繼承スルニ及バズシテ薨ズ、時ニ天皇幼シ叔父高市皇子立テ皇太子ト為ル、高市皇子モ亦薨ズ、是ノ時ニ當テ天皇既ニ長ジ皇太子ニ立ツ、祖母持統天皇遂ニ皇位ヲ天皇ニ傳フ、是本邦ニ於テ嫡孫承祖ノ始ナリ

○從姪孫女ノ後ヲ族叔祖父ノ繼承セシ例



○族叔祖父ノ後ヲ從姪孫女ノ繼承セシ例



第四十五代 聖武天皇

天皇ノ父文武天皇崩ズ天皇時ニ年未ダ長ゼズ、元明元正ノ二天皇相繼テ立ツ、元正天皇皇位ヲ辞スルニ及テ天皇之ヲ繼承ス

女主 第四十六代 第四十八代 孝謙天皇

天皇重祚ス後世ニ至テ重祚ヲ称シテ称徳天皇トイヒ以テ前世ニ別ツ

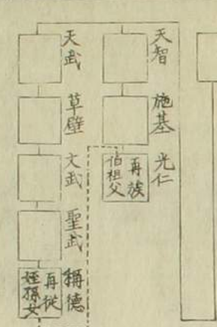
父聖武天皇皇子アリ以テ皇太子ト為ス、皇子薨ズ故ヲ以テ皇位ヲ天皇ニ傳フ、天皇ハ女主ナリ、女主ハ其ノ傳フベキ者無シ聖武天皇因テ詔シテ道祖王ヲ立テ天皇ノ皇太子ト為ス、後事故アリ道祖王ハ廢セラル、是ヨリ先女主數帝アリ、皆位ヲ繼承スベキ皇子アリトモ而レドモ事故アルヲ以テ雖ド間皇位ヲ繼承シ、武ハ皇子數年ノ年未長ゼザルヲ以テ皇位ヲ繼ノ承シテ、以テ其ノ長ズルヲ俟シ、孝謙天皇ハ獨然ラズ

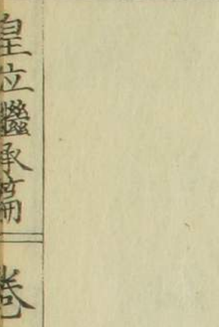
孝謙天皇ハ神亀四年閏九月廿九日生ル孝謙天皇ニ後ル、コト八年十リ

皇子基王

基王ハ皇太子ト為リテ後一年ヲ薨ズ

○再從姪孫女ノ後ヲ再族伯祖父ノ繼承セシ例





第四十七代 天武天皇孫舍人親王子 淳仁天皇

孝謙天皇嗣无シ、因テ天皇ヲ以テ皇太子ト為シ以テ皇位ヲ讓ル、天皇乃皇位ヲ繼承ス、後數年ニシテ孝謙天皇ニ廢セラル

天武天皇孫新田部親王子 道祖王

孝謙天皇嗣无シ、因テ道祖王ヲ以テ皇太子ト為ス、既ニシテ道祖王孝謙天皇ノ意ニ恊ハズ皇太子ヲ廢セラル、淳仁天皇代テ皇太子ト為ル

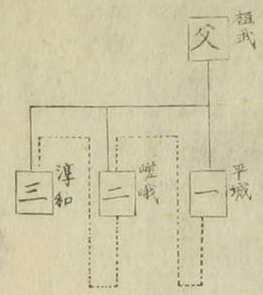
第四十九代 天智天皇孫施基皇子子 光仁天皇

天皇ノ再從姪孫稱德天皇崩ズ、天皇稱德天皇ノ遺詔ニ從テ皇位ヲ繼承ス

第五十代 桓武天皇

天皇ハ母ノ卑シキヲ以テ初メ皇太子タラズ、後皇太子ト為リテ皇位ヲ繼承ス

○兄ノ後ヲ弟ノ繼承セシ例



早良親王

親王ハ父光仁天皇ノ詔ニ依テ立テ兄桓武天皇ノ皇太子トナル、事アリテ廢セラル

第五十代 **平城天皇**

高岳親王

親王ハ叔父嵯峨天皇ノ皇太子トナル、父平城天皇ノ事ニ依テ廢セラレテ僧トナル、真如親王即チ是ナリ

第五十一代 **嵯峨天皇**

天皇ハ兄平城天皇ノ讓ヲ受ク、故ヲ以テ兄ノ子高岳親王ヲ立テ皇太子ト為シテ、之ニ皇位ヲ傳ヘント欲ス、既ニシテ平城天皇ノ事アリ、因テ高岳親王ヲ廢シテ、皇位ヲ淳和天皇ニ傳フ

第五十二代 **淳和天皇**

天皇ハ兄嵯峨天皇ノ讓ヲ受ケテ皇位ヲ繼承ス、故ニ子ヲ以テ皇太子ト為ス、兄ノ子ヲ以テ皇太子ト為ス、禮讓ヲ貴ブナリ

恒貞親王

親王ハ從兄弟仁明天皇ノ皇太子ト為ル、事故アリテ廢セラル

第五十四代 **仁明天皇**

天皇ハ叔父淳和天皇ノ讓ヲ受ケテ皇位ヲ繼承ス、故ニ子ヲ以テ皇太子トセズ、叔父ノ子恒貞親王ヲ以テ皇太子ト為ス、恒貞親王不軌ヲ圖ルト聞テコレヲ廢シ、代フルニ子文德天皇ヲ以テス

第五十五代 **文德天皇**

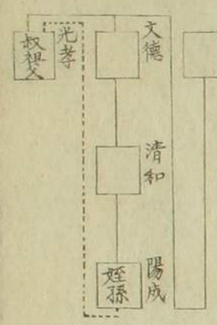
第五十六代 **清和天皇**

第五十七代 **陽成天皇**

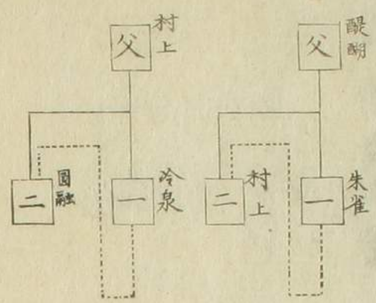
天皇喜怒常ナラズシテ遜位ス、但シ皇子數人アリ

第五十八代 **光孝天皇**

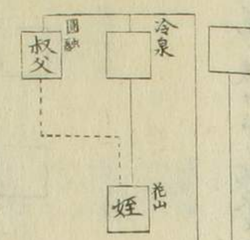
○姪孫ノ後ヲ叔祖父ノ繼承セシ例



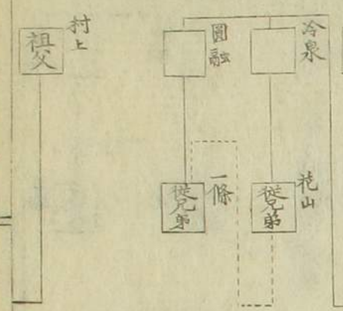
○兄ノ後ヲ弟ノ繼承セシ例



○叔父ノ後ヲ姪ノ繼承セシ例



○從兄弟ノ後ヲ從兄弟ノ繼承セシ例



第五十九代
宇多天皇

姪孫陽成天皇喜怒常ナラズ、群臣因テ天皇ヲ勸進ス、天皇乃チ皇位ヲ繼承ス

第六十代
醍醐天皇

保明親王
親王ハ立テ皇太子ト為ル、父醍醐天皇在位ノ中ニ薨ズ

慶頼王
父保明親王薨ズ、王立テ皇太子ト為ル、王亦祖父醍醐天皇在位ノ中ニ薨ズ

第六十一代
朱雀天皇

父醍醐天皇皇位ヲ保明親王ニ傳ヘント欲ス、保明親王薨ズ、因テ孫慶頼王ニ傳ヘント欲ス亦薨ズ、故ヲ以テ天皇ニ傳フ、天皇乃チ皇位ヲ繼承ス、天皇皇子無シ

第六十二代
村上天皇

兄朱雀天皇皇子無シ、天皇因テ皇位ヲ繼承ス

第六十三代
冷泉天皇

天皇ハ兄冷泉天皇ノ讓ヲ受ケテ皇位ヲ繼承ス、冷泉天皇皇子花山天皇アリ、年幼キヲ以テノ故ニ皇位ヲ傳ヘザルカ

第六十四代
圓融天皇

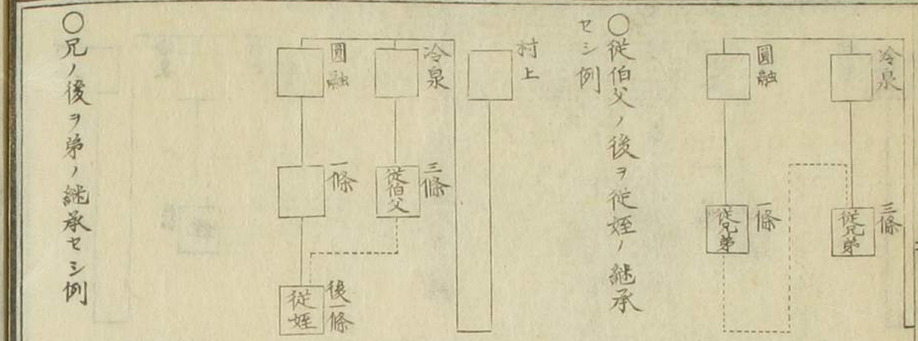
天皇ハ叔父圓融天皇ノ讓ヲ受ケテ皇位ヲ繼承ス、故ヲ以テ叔父ノ子一條天皇ヲ以テ皇太子ト爲ス、事故アリテ遜位ス、遜位ノ後天皇皇子數人ヲ生ム

第六十五代
花山天皇

天皇ハ叔父圓融天皇ノ讓ヲ受ケテ皇位ヲ繼承ス、故ヲ以テ叔父ノ子一條天皇ヲ以テ皇太子ト爲ス、事故アリテ遜位ス、遜位ノ後天皇皇子數人ヲ生ム

第六十六代
一條天皇

天皇ノ父圓融天皇禮讓ノ意ヲ用テ、皇位ヲ子ニ傳ヘズシテ姪花山天皇ニ傳フ、花山天皇モ亦禮讓ノ意ヲ用テ、從兄弟一條天皇ヲ以テ



○從伯父ノ後ヲ從姪ノ繼承セシ例

○兄ノ後ヲ弟ノ繼承セシ例

皇太子ト為ス、花山天皇遜位ノ後天皇皇位ヲ繼承ス

第六十七代
三條天皇

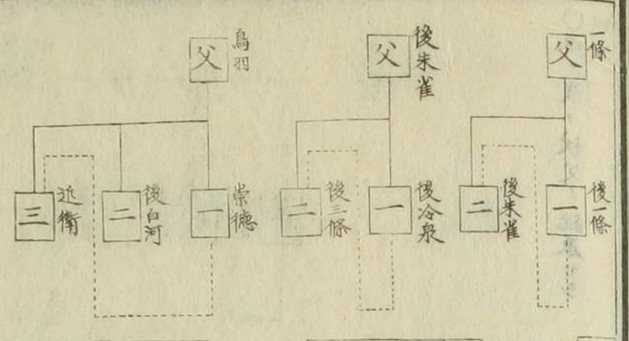
天皇ノ從兄弟一條天皇ハ花山天皇ノ讓ヲ受ク、故ニ禮讓ノ意ヲ用ヰテ、皇位ヲ子ニ傳ヘズシテ之ヲ天皇ニ傳フ、天皇ハ花山天皇ノ弟ナリ

第六十八代
後一條天皇

天皇ノ從伯父三條天皇ハ一條天皇ノ讓ヲ受ク、故ニ禮讓ノ意ヲ用ヰテ皇位ヲ天皇ニ讓ル、天皇乃立ツ、天皇モ亦禮讓ノ意ヲ用テ三條天皇ノ子（敦明親王ニテ即小一條院ナリ）ヲ立テ以テ皇太子ト為ス、但シ天皇ハ皇子ナシ

敦明親王

親王ノ再從兄弟後一條天皇ハ三條天皇ノ讓ヲ受ク、故ニ禮讓ノ意ヲ以テ親王ヲ立テ皇太子ト為ス、親王ハ後一條天皇ヨリ年長ズル十四歲ナリ、親王遂ニ皇太子ヲ辭ス、小一條院ト称ス、



第六十九代
後朱雀天皇

天皇ハ兄後一條天皇ノ讓ヲ受ケテ皇位ヲ繼承ス

第七十代
後冷泉天皇

天皇皇子無シ、故ヲ以テ皇位ヲ弟後三條天皇ニ傳フ

第七十一代
後三條天皇

天皇ハ兄後冷泉天皇ノ讓ヲ受ケテ皇位ヲ繼承ス

第七十二代
白河天皇

實仁親王

親王ハ兄白河天皇ノ皇太弟ニ立ツ、白河天皇在位ノ中ニ薨ズ

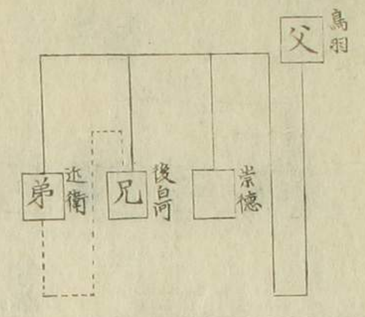
第七十三代
堀河天皇

第七十四代
鳥羽天皇

第七十五代
崇德天皇

天皇ハ父鳥羽天皇ト相善カラズ、近衛天皇崩ジテ皇子無シ、天皇因

○第ノ後ヲ兄ノ継承セシ例



テ重祚セントト欲シ或ハ皇子重仁親王ヲ以テ皇位ヲ継承セシメント欲スト得ズ、弟後白河天皇立ツ、天皇ノ意ニ不平ヲ懷ク遂ニ保元ノ乱アリ、軍破ル、ニ及デ天皇讃岐ニ遷幸ス

第七十七代
後白河天皇

天皇ノ弟近衛天皇崩ズ皇子無シ、天皇因テ皇位ヲ継承ス、兄崇德天皇意ニ甚ダ不平ヲ懷ク

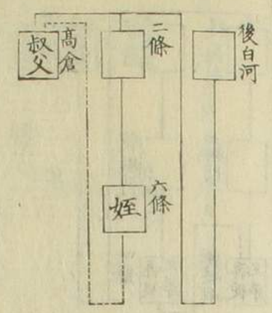
第七十六代
近衛天皇

兄崇德天皇皇位ヲ譲ル天皇コレヲ受ク、天皇崩ズ、皇子無シ、崇德天皇因テ子重仁親王ヲシテ皇位ヲ継承セシメント欲ス得ズ、後白河天皇立ツ

重仁親王

親王ノ父崇德天皇皇位ヲ近衛天皇ニ譲ル、近衛天皇崩ズ、皇子無シ、崇德天皇因テ親王ヲシテ皇位ヲ継承セシメント欲ス得ズ

○姪ノ後ヲ叔父ノ継承セシ例



第七十八代
二條天皇

第七十九代
六條天皇

天皇ハ祖父後白河天皇ノ意ニ従ヒ天皇位ヲ叔父高倉天皇ニ傳ス、天皇時ニ年五歳ナリ、十三歳ニシテ崩ズ

第八十代
高倉天皇

天皇ハ父後白河天皇ノ意ニ従テ皇位ヲ継承ス

第八十一代
安德天皇

天皇事故アリテ西海ニ崩ズ

守貞親王

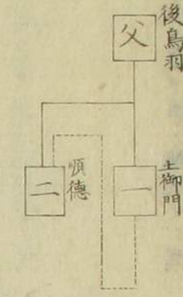
親王ハ祖父後白河天皇ノ意ニ適セザルヲ以テ皇位ヲ継承セズ

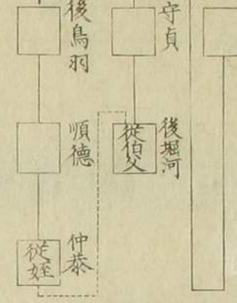
第八十二代
後鳥羽天皇

天皇ノ兄安德天皇事故アリテ西海ニ遷幸ス、京師ニ主無シ、天皇祖父後白河天皇ノ詔ニ従テ皇位ヲ継承ス、天皇勅ハ不正位後正位ナリ

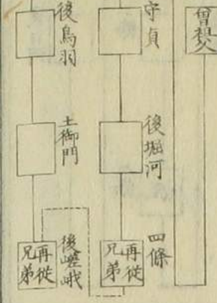
○兄ノ後ヲ弟ノ継承セシ例

○從姪ノ後ヲ從伯父ノ継承セシ例





○再從兄弟ノ後ヲ再從兄弟ノ継承セシ例



第八十三代

土御門天皇

天皇ハ父後鳥羽天皇ノ意ニ從テ皇位ヲ弟順德天皇ニ傳フ

第八十四代

順德天皇

天皇ハ父ノ意ニ從テ兄土御門天皇ノ讓ヲ受ク

第八十五代

仲恭天皇

承久ノ乱アリ天皇因テ遜位ス、皇子ナシ

第八十六代

後堀河天皇

天皇ハ北條義時ノ勸進ニ從テ皇位ヲ継承ス

第八十七代

四條天皇

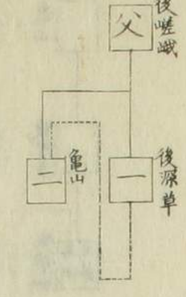
天皇年十二歳ニシテ崩ズ子無シ

第八十八代

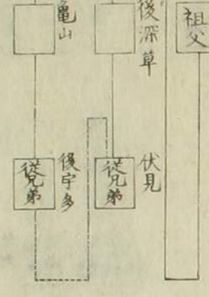
後嵯峨天皇

天皇ノ再從兄弟四條天皇崩ズ、天皇北條泰時ノ勸進ニ從テ皇位ヲ継承ス

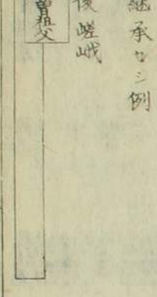
○兄ノ後ヲ弟ノ継承セシ例



○從兄弟ノ後ヲ從兄弟ノ継承セシ例



○再從兄弟ノ後ヲ再從兄弟ノ継承セシ例



第八十九代

後深草天皇

天皇ハ父後嵯峨天皇ノ意ニ從テ皇位ヲ弟亀山天皇ニ傳フ

第九十代

亀山天皇

天皇ハ父後嵯峨天皇ノ意ニ從テ兄後深草天皇ノ讓ヲ受ク、而シテ後コレヲ子世仁親王（後宇多天皇）ニ傳フ、亦後嵯峨天皇ノ意ニ從フナリ

第九十一代

後宇多天皇

天皇ハ北條貞時ノ奏スル所ニ從テ、皇位ヲ從兄弟伏見天皇ニ傳フ

第九十二代

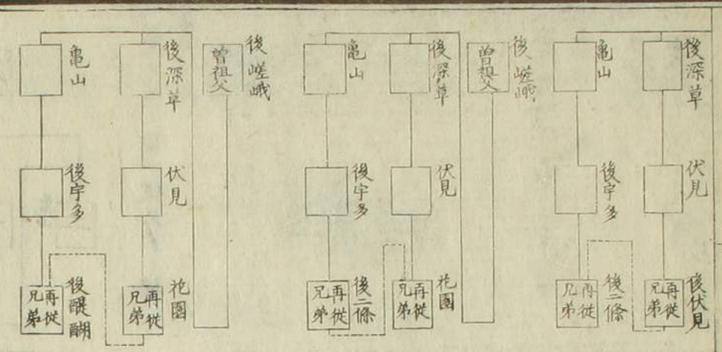
伏見天皇

天皇ハ北條貞時ノ奏スル所ニ從テ、從兄弟後宇多天皇ノ皇太子ト為リ、遂ニ皇位ヲ継承ス

第九十三代

後伏見天皇

天皇ハ北條貞時ノ奏スル所ニ從テ、皇位ヲ再從兄弟後二條天皇ニ



傳フ

第九十四代
後二條天皇
天皇ハ北條貞時ノ奏スル所ニ従テ、再従兄弟後伏見天皇ノ譲ヲ受ケ皇位ヲ継承ス

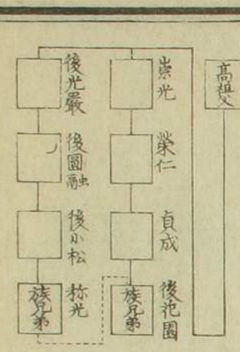
第九十五代
花園天皇
天皇ハ北條貞時ノ奏スル所ニ従テ再従兄弟後二條天皇ノ皇太子トナリ、遂ニ皇位ヲ継承ス

第九十六代
後醍醐天皇
天皇ハ北條高時ノ奏スル所ニ従テ、再従兄弟花園天皇ノ譲ヲ受ケ皇位ヲ継承ス

邦良親王
親王ハ北條高時ノ奏スル所ニ従テ、叔父後醍醐天皇ノ皇太子トナル、後醍醐天皇在位ノ中ニ薨ズ

第九十七代
後村上天皇

○族兄弟ノ後ヲ族兄弟ノ継承セシ例



第九十八代
後亀山天皇
天皇事故アリテ皇位ヲ後小松天皇ニ傳フ

良泰親王
親王立テ皇太子トナル、事故アリテ皇位ヲ継承セズ

不正位
光厳天皇

不正位
光明天皇

不正位
崇光天皇

不正位
後光厳天皇

不正位
後圓融天皇

第九十九代
称光天皇
後位
後小松天皇
天皇事故アリテ後嵯峨天皇五世ノ孫後亀山天皇ノ譲ヲ受ケテ皇位ヲ継承ス、天皇ハ後嵯峨天皇七世ノ孫ナリ

第百代
稱光天皇
天皇皇子無シ

崇光天皇子
栄仁親王——貞成親王

○祖父ノ後ヲ嫡孫ノ繼承セシ例

第百代　後花園天皇
天皇ノ族兄弟称光天皇崩ズ皇子無シ、天皇因テ皇位ヲ繼承ス

第百一代　後土御門天皇

第百三代　後柏原天皇

第百四代　後奈良天皇

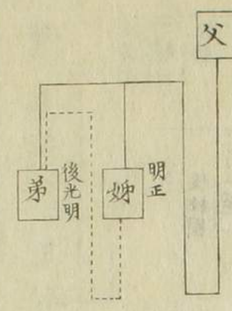
第百五代　正親町天皇

誠仁親王
親王ハ父正親町天皇在位ノ中ニ薨ズ、故ニ皇位ヲ繼承セズ

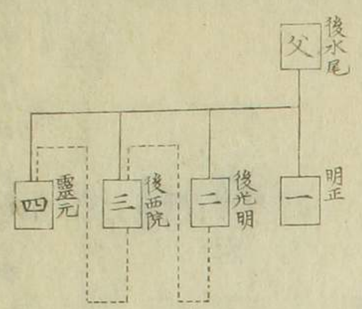
第百六代　後陽成天皇
天皇ハ父誠仁親王薨ゼシヲ以テノ故ニ、祖父正親町天皇ノ譲ヲ受ケテ皇位ヲ繼承ス、嫡孫承祖ナリ

第百七代　後水尾天皇
天皇萬機ニ倦ミテ皇位ヲ譲ラントス、皇子アリ先ダチテ薨ズ、故

○姉ノ後ヲ弟ノ繼承セシ例



○兄ノ後ヲ弟ノ繼承セシ例



ヲ以テ皇女興子内親王明正天皇ニ傳フ

第百八代　明正天皇
父後水尾天皇皇子ノ薨ゼシヲ以テ皇位ヲ天皇ニ傳フ

第百九代　後光明天皇
天皇ハ父後水尾天皇譲位ノ後生ル、姉明正天皇ノ譲ヲ受ケテ皇位ヲ繼承ス、天皇崩ズ皇子無シ

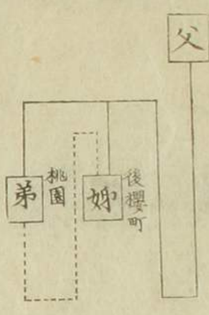
第百十代　後西院天皇
天皇ノ兄後光明天皇崩ジテ皇子無シ、故ヲ以テ天皇皇位ヲ繼承ス、天皇皇子アリ而シテ皇位ヲ子ニ傳ヘズシテ弟ニ傳フ、其ノ所以如何ナルヲ知ラズ

第百十一代　靈元天皇
天皇ハ兄後西院天皇ノ譲ヲ受ケテ皇位ヲ繼承ス

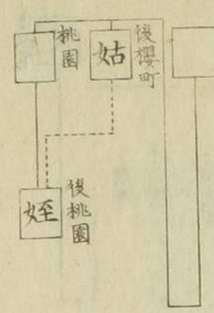
第百一代　東山天皇

第百二代　中御門天皇

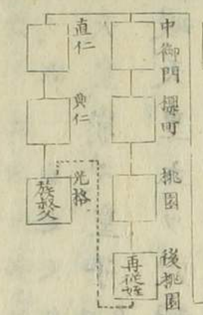
○弟ノ後ヲ姉ノ継承セシ例



○姑ノ後ヲ姪ノ継承セシ例



○再従姪ノ後ヲ族叔父ノ継承セシ例



第百廿五代
櫻町天皇

第百廿六代 女主
後櫻町天皇

天皇ノ弟桃園天皇崩ジテ、皇子年未ダ長ゼズ、天皇群臣ノ勧進ニ従テ皇位ヲ継承シ、以テ桃園天皇ノ皇子ノ長ズルヲ竢ツ

第百廿七代
桃園天皇

天皇ハ父櫻町天皇ノ譲ヲ受ケテ皇位ヲ継承ス、天皇崩ズ時ニ皇子英仁親王ニテ即後桃園天皇ナリ年未ダ長ゼズ

第百廿八代
後桃園天皇

天皇ハ姑後櫻町天皇ノ譲ヲ受ケテ皇位ヲ継承ス、天皇崩ズ皇子無シ

直仁親王——典仁親王

第百廿九代 東山天皇書孫
光格天皇

天皇ハ再従姪後桃園天皇ノ遺詔ニ従テ皇位ヲ継承ス

第百十九代
仁孝天皇

第百二代
孝明天皇

第百廿一代
今上

女主ノ皇位ヲ繼承ゼシ大意

皇位ノ繼承ハ男子コレヲ承ク是恒典ナリ、女子ノコレヲ承クルハ時ニ事故アリテ已ムコトヲ得ザルニ出デ、而シテ必ス竢ツコトアルナリ、其ノ竢ツコトアリトイフハ何ゾ其ノ立ツベキ皇子アリト雖ヘドモ、年尚幼ケレバ其ノ長ズルヲ竢ツト、皇子年長ズト雖ヘドモ事故アリテ其ノ時ノ至ルヲ竢ツトナリ、故ニ今其ノ大意ヲ略記シテ以テ捷覧ニ備フ

推古天皇・皇極天皇　持統天皇　元明天皇

元正天皇　孝謙天皇　明正天皇　後櫻町天皇

本邦ニ於テ皇女女王ノ皇位ヲ繼承セシコトハ額田部皇女ニ始マル、額田部皇女ハ欽明天皇ノ皇女ニシテ、箭田珠勝大兄皇子、敏達天皇、用明天皇ノ妹、穴穂部皇子、崇峻天皇ノ姊ナリ、箭田珠勝大兄皇子ハ欽明天皇ノ在位ノ中ニ薨ズ、敏達天皇因テ皇位ヲ繼承ス、敏達天皇崩ズ、皇子（押坂彦人大兄皇子）年幼クシテ父ノ後ヲ嗣グコト能ハズ、用明天皇因テ代リ立ツ○本邦世ニ至テ皇太子年未ダ長セズトイヘドモ、群臣勸進シテ之ヲ立テ、大臣ノ中一人萬機ヲ攝スルノ典アリ、上古ハ然ラズ、萬機ヲ親ラ決スルコト能ハザレバ、皇位ヲ繼承セザリシナリ、故ニ敏達天皇崩シテ用明天皇立ツ、亦當然ノ理ナリ　用明天皇崩ズ、皇子（厩戸皇子）年幼クシテ父ノ後ヲ嗣グコト能ハズ、崇峻天皇立ツ穴穂部皇子ハ故アリテ立タズ○用明天皇崩ジテ皇子厩戸皇子ノ例ニ同ジ、ノ皇位ヲ繼承セザリシ故ハ、押坂彦人大兄皇子ハ順序ヲ以テイハバ宜シク穴穂部皇子立ツベシ、穴穂部皇子ハ妹額田部皇女ノ意ニ適セズ、群臣モ亦素行ノ修ラザルヲ以テノ故ニ之ヲ奉戴セズ、是ニ於テ崇峻天皇立ツ　崇峻天皇蘇我馬子ニ弑セラル、崇峻天皇皇子アリ群臣之ヲ奉戴セズ額田部皇女ヲ勸進ス、皇女因テ皇位ヲ繼承ス、是ヲ推古天皇トイフ、天皇時ノ至ルヲ俟テ、寶位ヲ厩戸皇子ニ傳ヘント欲スルコトハ、皇子ヲ立テ、皇太子ト為スニテ瞭然タリ

○崇峻天皇崩ズ皇子蜂子皇子、アリ、群臣コレヲ奉戴セズ額田部皇女遂ニ皇位ニ即ク、是ノ時ニ當テ敏達天皇ノ皇子押坂彦人大兄皇子アリ、又用明天皇ノ皇子厩戸皇子ハ日嗣皇子ナリ、皇統ノ嫡子ニシテ殊ニ押坂彦人大兄皇子ハ日嗣皇子ナリ、皇統ノ傳コヽニ及バズシテ額田部皇女立ツ後世疑ナキコト能ハザレバ、父ノ弟皇位ヲ繼承ス、因テ按ズルニ父天皇崩ズ子日嗣皇子アリ、而レドモ年幼クシテ萬機ヲ決スルコト能ハザレバ、父ノ弟皇位ヲ繼承セザリシコヽ、上古ノ習慣ニシテ世人モ亦以テコレヲ間然セザリシナリ、押坂彦人大兄皇子ハ日嗣皇子ナリトイヘドモ而レドモ叔父用明天皇ノ後ヲ必ズ受クベキハ、用明天皇立ツニ及デモ皇子ニ非ラズ是日嗣皇子ト皇太子ト差別アリテ少異アル所以ナリ、故ニ日嗣皇子ハ年未ダ長ゼズシテ父天皇崩ズレバ、其ノ名ハ大兄皇子ノ日嗣皇子ナリトイヘドモ、世人必ズコヽニ稱トストイヘドモ、皇太子ハ然ラズ以テ皇位ヲ繼承スベキ者ト認メズ、皇太子ハ然ラズ皇子ノ皇太子ト稱スル者ハ、世人父天皇崩ズトイヘドモ、皇子

必ズ皇位ヲ継承スル者ト認ム、故ニ事故アルニ至テハ皇太子ノ位ヲ廢シ太子ヲ改メテ皇子ト称ス、大兄皇子ハ後主ノ更ニコレヲ立ツルニ及テハ皇太子某ノ大兄皇子ト重ネテ称スル所謂ル皇太子中大兄皇子（天智天皇即チ是ナリ）、因テ又按ズルニ日嗣皇子トイヘドモ、其ノ立ツ時ヲ過セバ、及バズシテ其ノ皇子ハ普通ノ皇子ニ等シ、押坂彦人大兄皇子ノ遂ニ立タザリシ所以モ亦以テ知ルベキナリ、厩戸皇子ハ固ヨリ日嗣皇子ニ非ラズ、又父用明天皇崩ゼシ時ハ年幼クシテ萬機ヲ決スルコト能ハズ、其ノ立タザリシモ宜ナリ、敏達用明崇峻ノ三天皇兄弟相継テ皇位ヲ継承ストイヘドモ、而レドモ其ノ崩ズルニ至テ、其ノ皇子ノ并ニ皆其ノ後ヲ受ケザリシモ亦相似タリ、後世ノ人此ニ注意シテ以テ、當時ノ情実ヲ察セザルベカラサルナリ、當時親ク萬機ヲ決スルニ堪ヘテ皇位ヲ継承スベキ者ハ頷田部皇女ニ非ラズシテ誰ソヤ、實ニ已ムコトヲ得ザルナリ、推古天皇紀ヲ按ズルニ、額田部皇女乃チ皇位ヲ継承シテ厩戸皇子ヲ皇太子ト為ス、知ヌベシ天皇時ノ至ルヲ俟テコレヲ皇位ヲ傳ヘント欲スルコトヲ

寶女王ハ敏達天皇ノ曾孫ニシテ、茅渟王ノ女孝徳天皇ノ姊ナリ、立チテ舒明天皇ノ皇后ト為ル、舒明天皇崩ズ、天皇皇子數人アリ、中ニ古人大兄皇子中大兄皇子俱ニ日嗣皇子ナリ

○大兄皇子ト稱スル者ハ、皆日嗣皇子ノ條ニ辨ズ

而レドモ二皇子俱ニ立タズ、皇后寶女王立ツ、是ヲ皇極天皇トイフ、皇極天皇ノ立ツヤ、其ノ生ム所ノ日嗣皇子中大兄皇子ノ年長ズルヲ俟チシナラン

○舒明天皇崩ズ、日嗣皇子古人大兄皇子理宜シク立ツベシ、而シテ立タズ皇后寶皇女立ツ、後世疑ナキコト能ハズ、因テ按ズルニ古人大兄皇子ハ春秋已ニ富メリ萬機ヲ決スルニ難カラズ、而シテ其ノ立タザリシ所以ハ、皇子ハ皇后寶女王ノ生メル所ニ非ラズ、蘇我馬子ノ女法提郎女ノ生ム所ニシテ、其ノ性モ亦賢ト稱スルニ足ラズ、中大兄皇子ハ皇后ノ生ム所ニシテ、天資聰明ナリ群臣之ヲ奉戴ス、而レドモ皇子年未ダ長ゼズ、是ニ於テ群臣ニ皇子ノ中ヲ擇ビ勧進セズシテ皇后ヲ勧進セシモノ歟、皇后ハ毎ニ古道ヲ順テ考シテ而シテ政ヲ為スト、其ノ非凡ナルコトヲ以テ知ルベシ、但群臣ノ皇后ヲ勧進セシコトハ日本紀ニ所見ナシ、因テ又按ズルニ日嗣ノ二皇子ナドノ俱ニ勧進セシモノ歟、當時ノ情實ヲ考フルニ此ノ二説ノ外ニ出ヅベカラズ、是ニ由テ之レヲ觀レバ寶女王ノ皇位ヲ継承セシハ、實ニ已ムコトヲ得ザリシナリ、女王ノ皇位ヲ継承スルニ至テハ、古人大兄皇子ハ尋常ノ皇子ノ如ク、中大兄皇子ハ日嗣皇子ノ地位動カズシテ仍故ノ如クナルコト、前條ニ辨ゼルガ如シ

既ニシテ蘇我入鹿ノ事アリ、天皇因テ皇位ヲ中大兄皇子ニ傳ヘズシテ弟孝徳天皇ニ傳フ

○日嗣皇子中大兄皇子立タズシテ孝徳天皇ノ皇位ヲ継承セシコトハ、中臣鎌足ノ策ニ從フナリ、事ハ日本書紀ニ詳ナリ

孝

徳天皇崩ズ、皇極天皇再祚ス是ヲ齊明天皇トイフ○孝徳天皇崩ズ、中大兄皇子宜シク立ツベシ、而ルニ皇子ノ立タズシテ母天皇重祚スル所以ハ、皇子親ラ謙遜シテ乃ツヒニ母ニ隨フノ意ヲ表セシナラン女主再タビ祚ニ登リシコトハ天津日嗣高御座ノ御業ハ重事ナリ、皇太子中大兄皇子因テ皇位ニ即カズ、母天皇再タビ皇位ニ即キシナラン○神皇正統記中巻ニ云ク、我朝ハ皇極の重祚を齊明と号し、孝謙の重祚を稱徳と号ス、異朝ハ替れり、是天日嗣を重くするゆゑなり、先賢の義さまでよしあるおやの御事なり、孝徳の御代より太子ゐ立給ふ、此御時ハ摂政子の御事なり、天智天皇皇位ヲ継承セズシテ、御母ヲ奉戴シ再タビ祚ニ登ラシメ、已萬機ヲ輔翼セシヨト此ノ文ニ據テ見ルベキナリ皇極天皇再祚シテ而シテ後時ノ至ルヲ俟テ寶位ヲ中大兄皇子ニ傳ヘント欲スルコトハ、皇子ヲ立テハ皇太子ト為スニテ瞭然タリ鸕野讃良皇女ハ天智天皇ノ皇女ニシテ、元明天皇弘文天皇ノ姊ナリ、立チテ天武天皇ノ皇后ト為ル、天武天皇崩ズ皇子草壁皇子アリ、時ニ年廿五歳ナリ立タズ、皇子ノ母皇后鸕野

讃良皇女立ツ、コレヲ持統天皇トイフ、天皇ノ立ツヤ抑、所以アリ○此ノ事ハ下ニ辨ズ亦以テ已ムコトヲ得ザルニ出ヅルナリ天武天皇崩ズ、皇子草壁皇子理宜シク立ツベシ、而ルヲ皇后鸕野讃良皇女立ツ、必ズ事故ナキヲ得ベカラザルナリ、因テ按ズルニ天武天皇ハ草壁皇子ノ外ニ庶子数人アリテ、中ニ父ノ後ヲ継承セントト冀望スル者ナキニ非ズ、皇后因テ之ヲ慮リ已立テ皇位ヲ継承シ、而シテ後草壁皇子ニ傳フルノ意ナラン天武天皇崩セシ歳大津皇子ノ反逆ノ事アリ以テ見ルベキナリ

阿閉皇女ハ天智天皇ノ皇女ニシテ、持統天皇ノ妹弘文天皇ノ姊ナリ、立チテ皇太子草壁皇子ノ妃ト為リテ文武天皇ヲ生ム、持統天皇皇位ヲ文武天皇ニ傳フ、文武天皇崩ズ皇子首皇子聖武天皇アリ時ニ年尚幼シ、母阿閉皇女立テ皇位ヲ繼承シ、以テ首皇子ノ長ズルヲ俟ツ、實ニ已ムコトヲ得ザルナリ、是ヲ元明天皇トイフ○文武天皇疾アリ其ノ起ツベカラサルヲ計リ、皇位ヲ母阿閉皇女ニ讓ラントト欲ス、阿閉皇女固辞ス、天皇崩ズ、阿閉皇女因テ已ムコトヲ得ズシテ立テ皇位ヲ継承シ、以テ孫首皇子ノ長ズルヲ俟ツコト

ハ、已ムコトヲ得ザルナリ

氷高内親王ハ天武天皇ノ孫ニシテ草壁太子ノ子文武天皇ノ姊ナリ、文武天皇崩ズ、皇子首皇子年尚幼シ、元明天皇乃チ立チ、以テ首皇子ノ長ズルヲ俟ツ、元明天皇疾アリ萬機ヲ決スルコト能ハザルニ至テ、皇位ヲ首皇子ニ傳ヘント欲ス年未ダ長ゼズ、故ヲ以テ首皇子ノ姑氷高内親王ニ傳ヘ、以テ其ノ姪ノ長ズルヲ俟タシム、氷高内親王立ツ是ヲ元正天皇トイフ、亦已ムコトヲ得ザルナリ（○元正天皇ノ皇位ヲ繼承セシ情實ハ、元明天皇紀元正天皇紀及ビ水鏡等ニ見エタリ就テ見ルベシ）

阿倍内親王ハ聖武天皇ノ皇女ニシテ皇子（基王）ノ姊ナリ、聖武天皇皇位ヲ皇子ニ傳ヘント欲シ、立テヽ皇太子ト為ス皇太子薨ズ、聖武天皇因テ已ムコトヲ得ズ、阿倍内親王ヲ立テヽ皇太子ト為ス、遂ニコレニ皇位ヲ讓ル、阿倍内親王立ツ是ヲ

孝謙天皇トイフ、孝謙天皇立ツニ及テ、天皇道祖王（ミチノオヒト）（○天武天皇ノ孫ニシテ新田部親王ノ子ナリ）ヲ立テ皇太子ト為ス（○孝謙天皇ハ子無キコト必セルヲ以テ聖武天皇皇命ジテ道祖王ヲ立テ皇太子タラシメシナリ）父聖武天皇ノ皇子無キヲ以テ、皇位ヲ皇女ニ傳フト雖ヘトモ、而レドモ其ノ恒典ニ非ラザルヲ以テ、乃チ道祖王ヲ以テ立テヽ、其ノ皇太子ト為シ、時ノ至ルヲ俟テ之ニ皇位ヲ繼承セシム以テ推古天皇以来ノ女主ノ跡ニ倣フナリ（○女主ノ跡ニ倣フトハ道祖王ヲ以テ皇太子ト為シテ、孝謙天皇ヲシテ時ノ至ルヲ俟テ皇位ヲ傳ヘシメントスルナリ）聖武天皇崩ズ、孝謙天皇皇太子道祖王ノ意ニ適セザルヲ以テ之ヲ廢シ、代フルニ大炊王（オホヒノ）ヲ以テシ、遂ニ之ニ皇位ヲ讓ル、是ヲ淳仁天皇トイフ、而シテ後淳仁天皇モ亦孝謙天皇ノ意ニ適セズ之ヲ廢ス、因テ再祚ス、所謂ル稱徳天皇是ナリ、天皇ノ再祚スルヤ時ニ代リ立ツベキ者無シ、亦已ムコトヲ得ザルナリ（○孝謙天皇初皇太子道

祖王ヲ廢シ、後淳仁天皇ヲ廢ス、諸王尚アリトイヘドモ、立テ皇太子ト為スベキコト是ニ至テ甚ダ難シ、其ノ情實推考シテ畧知ラル、孝謙天皇ノ再祚スルヤ實ニ已ムコトヲ得ザルナリ

興子内親王ハ後水尾天皇ノ皇女ニシテ、高仁親王及其皇子、後光明天皇、後西院天皇、靈元天皇ノ姊ナリ、後水尾天皇皇位ヲ高仁親王ニ傳ヘントヲ欲ス、高仁親王薨ズ、而シテ皇子某生ル亦薨ズ、天皇因テ皇位ヲ興子内親王ニ讓ル、興子内親王立ツ、是ヲ明正天皇トイフ、後水尾天皇ノ皇位ヲ辭セシコトハ、衰老ニ依ルニ非ラズ萬機ニ堪ヘザルナリ〇事ハ卷後水尾天皇讓位ノ後、後光明天皇、後西院天皇、靈元天皇ヲ生ム、後水尾天皇ノ皇位ヲ讓リシハ、後光明天皇以下三天皇ヲ生マザリシ前ニシテ、實ニ已ムコトヲ得ザリシナリ寛永三年十一月十三日生ル、同月廿五日親王宣下アリテ儲君ト為ル同五年六月十一日薨ズ、年三歳ナリ、某皇子ハ寛永五年九月廿八日生ル、若宮ト称ス、同年十月六日薨ズ、其ノ後顕子内親王生ル男ニ非ラズ、天皇因テ意ヲ決シテ皇位ヲ興子内親王ニ讓ル已ムコトヲ得ザリシコトヲ以テ見ルベキナリ

智子内親王ハ櫻町天皇ノ皇女ニシテ桃園天皇ノ姊ナリ、桃園天皇崩ズ、皇子英仁親王（後桃園天皇）アリ年未タ長ゼズ、群臣相議シテ智子内親王ヲ奉戴シ以テ勸進ス、内親王因テ皇位ヲ繼承シ、以テ英仁親王ノ長ズルヲ俟ツ、是ヲ後櫻町天皇トイフ、亦已ムコトヲ得ザリシナリ〇桃園天皇崩ズ皇子英仁親王コト能ハズ、故ヲ以テ後櫻町天皇立ツ、已ムコトヲ得ザルノ情實以テ見ルベキナリ時ニ年五歳ナリ、萬機ヲ決スル本邦ニ於テ女主ノ皇位ヲ繼承セシ者、推古天皇ヨリ後櫻町天皇ニ至テ總ベテ八主ナリ、其ノ皇位ヲ繼承スルヤ皆已ムコトヲ得ザルニ出ヅルナリ

皇位繼承篇卷十終